カウドルが賊軍に應援したりしことはマクベス知らぬことあるべからず然るに「時めき榮えたる」といふは心得がたし態と心の喜を掩はんとてシラバクレたりとするも樣子を知れるバンコーの前なれば其の甲斐なかるべし作者の筆のぬけ目かと云ふ既あり。ディトン辨ては曰はくカウドルの應援は秘密なりしゆゑにマクベスは知らざりしならんと。げにや後段にアンガスが長々しくカウドルの罪狀を數へたつるあたりを比べ見ればカウドルの叛逆は意外の變にてマクベスはいふに及ばず多數の人々が心附かざりしこと〻解釋して當然なるが如し。

「信ト」がたし」直譯は「信用の見込の中に立たず」とありて「信ト」て嘱望すべき限にあらず」と譯すべきものなり。

語れ、いづくより汝等は、かゝる奇怪の知識を得たるぞ。まッた何故にまッ此の如く艸木あら野のゆく手を遮り、わが行末をこと祝ぐぞ。語れ、語りませい。

owe は have の義 blasted heath は第一場に the heath とありしと同トものにて blasted は酷熱にやかれて草木の枯れ果てたるといふ程の義。「語れ語りませい」原文には「語れ我れ汝等に命ず」といふ程の義に て charge と使ひたり。charge は爰にては「嘱望す」苦しくは「疾く乞ふ」などの義なれば本文の如く意譯したり。

マクベスが血眼になりて將に消え去らんとする妖婆の姿を見送りて嘱言の確定を聽かんとするさま見るやうなり。「我が行末」は「意譯なり。

（妖婆消滅）

Ban. The earth hath bubbles, as the water has,
And these are of them. Whither are they vanished?

バンコー　土にも泡あることは水にひとしと、彼等は其のたぐひならん。さてもいづくへ消失せしか。

驚きながらも淡然たる所にバンコーとマクベスとの胸懷の差見えたり。此の邊コールリッジの評面白し其の『シヨークスピアに於ける Lecture』を參看すべし。

Mach. Into the air; and what seemed corporal melted
As breath into the wind—Would they had stayed!

マクベス　まさしく空氣に。○あり〳〵見えつる其の形が、風に溶けゆく息の如く○殘念至極。

corporal は coporeal にて「有形なるもの」を訓すべし、形容詞なり。「風に溶けゆく息」コールリッジも稱へしが寒き空の折にあひていさめてたき比喩なるべし。「殘念至極」原文には「今しばしとゞめまほしかりしを」とありマクベスが遺憾の貌色見るが如し。

Ban. Were such things here as we do speak about,
Or have we eaten on the insane root
That takes the reason prisoner?

Mach. Your children shall be kings.

Ban. You shall be king.

Mach. And thane of Cawdor too; went it not so?
Ban. To the selfsame tune and words. Who's here?

バンコー　果して彼等は爰にありしか今噂すなる化生の者は。
「今我々が喋すなる妖しの女等は實際爰に出現してありしか將に夢にてはなかりしか」といふ意。

但しは我々兩人は彼の分別を奪ふといふ毒草の根にあてられたりしか。
「分別を奪ふ」分別力即ち理性を失はしむる毒艸といふ義原文には「分別を癡にす」とあり。當時此くの如き毒艸ありと信ずたりしなり。henbane 即ち菲沃斯とか譯するもの、別名を insana といふ狂亂草の義。これを服すれば發狂すればなるべし。本文にいへる毒艸は即ち此の insana のことならんといふ說あり。

マクベス　いかにバンコー、和殿の子孫は國王たらんと。
妖婆が言葉マクベスの念頭を離れず口をつぐむ能はずしてバンコーに語る。

バンコー　さてまた和殿は國王たらんと。
バンコーは戲謔の口調にてかくいへるならん。ホリンシエッドの蘇史によれば此の問答は双方ともに戲言のやうに記したれど作者は別に用意あるにや。

マクベス　またカウドルの侯爵たらんと。

バンコー　いかにも、さやう申してムる。
さやう申したではムらぬか。

直譯は「其の通りの調子と言葉とにて」といふ程の義即ち「全く宣給へる通りなり」の意なり。此のトダンにロッス等入り來たるをバンコー目早く見て

バンコー　オ、かしこくまゐるは何人やらん。
ト彼なたを見こむ

Enter Ross *and* Angus.

Ross. The king hath happily received, Macbeth,
The news of thy success; and when he reads
Thy personal venture in the rebel's fight,
His wonders and his praises do contend
Which should be thine or his: silenced with that,
In viewing o'er the rest of the selfsame day,
He finds thee in the stout Norweyan ranks
Nothing afeard of, what thyself didst make,
Strange images of death. As thick as hail
Came post with post, and every one did bear
Thy praises in his kingdom's great defence,
And poured them down before him.

Ang. We are sent

To give thee from our royal master thanks;
Only to herald thee into his sight,
Not pay thee.

Ross. And, for an earnest of a great honour,
He bade me, from him, call thee thane of Cawdor:
In which addition, Hail, most worthy thane!
For it is thine.

ロッス並びにアンガス登場

二癈ダンカン王の勅命によりてマクベスを迎賀せんとて來たれるなり、我が劇に謂ふ「御勅使のお入り」なり。

ロッス　いかにマクベス、足下がこたびの勝戰を君聞こしめし及ばせられ、御よろこび斜ならず、まった足下が身を挺んで、みづから賊將と格鬪ありし、其の注進をみそなはし、御驚歎と御稱美と、御心の中に相たゝかひ、いづれの方を勝れりとも決めかねさせたまひつゝ

happily とあるは喜びての義と解すべし、success 時々は只結果といふ義に用ふることもあれど爰にては本文の如く解すべし。

爰は勅使の言葉なれば「足下」を其方など譯して可からんかと思ひしが、解思ふやうにまはられば前後の調和を重んじて本文の如くものしつ。thou といふ代名詞は概して you とは區別して用ひたり。thou は多く君上より臣下に、若しくは長者より下輩に向ふ時に用ひたり。アボットを看るべし。

「御驚歎と御稱美」云々のあたり原文紛亂して文理明ならず諸説を參酌して本文の如く譯したり。thine or his とある thine は praise に係れりと見るべし云ふ心は如何にせば其の驚歎を十分にいひあらはしてマクベスを稱美することを得べきかと心中惑ひ迷へりとの義。

遂には御口をつぐませられ、尚も其の日の戰の、餘の注進を御覽ずれば、足下敵中に切って入り、ノルウェイの猛兵を屠り、見るも忌々しき「死の相」を、まのあたりに現じながら、絶えて怖るゝ色無かッし、勇敢無双の一伍一什。

「遂に御口云々」原文には「それをもて沈默して」といふ意味の句を用ひたれば解釋くさ〳〵あり本文はクラークに據れり。stout 爰にては bold and resolute の義とシミットは解せり。「死の相」原文には「死の肯像」とあり死といふもの〳〵肯像は此〳〵の如きものかと思はるゝばかりに多數の人を屠殺して骸の山を築きたりといふ意。「忌々しき」は strange といふ語を意譯したるなり、悉くいへば亜々の武士ならばかゝる恐ろしき死の相を見たるのみなりても恐怖すべきにみづから其の死の相を製り出だしながら怖るゝ色なし云々の義。

繁きこと霰の如く踵を接する早馬早使、皆足下をば我が國の、大干城と稱へつゝ、注進御前に降りそゝげり。

「繁きこと蔓云々」一本には「繁きこと tale の如く」とあり tale と hail と字相似たれば衍れるならん。若し tale を正しとせば「數ふる遑なきほどに」など譯すべきか。

アンガス　これによッて陛下それがしらをさしつかはされ、御感のみことのりを傳へしめたまふ、すなはち我々兩人は、足下を御前へ將てまゐれよとの御使、功に報いんの御使ならず

すなはち招待の使にして功勞を賞する使にはあらず報賞は別にみづから下し賜ふべしといふ意。

ロッス　まッた御ン殊遇の印として、取あへず足下をば、カウドルの侯と稱せよとある君の御諚

「御殊遇の印」原文には賞又は手附金と譯すべき earnest といふ語を用ひたり。

すなはち該爵は、只今より、足下の有と相なッたり、いと〳〵尤けき侯爵ぬし、いざ祝しさふらはんず、万歳々々。

原文に addition とあるは爵の義なり「侯爵ぬし」少し無理にはあれど「内府さま」などの例と見るべし、今までは勅使の詞此の祝詞は同盟以下となりていふ心持なるべきか。

Ban.　What, can the devil speak true?

Mach.　The thane of Cawdor lives: why do you dress me In borrowed robes?

Ang.　Who was the thane, lives yet:
But under heavy judgment bears that life
Which he deserves to lose.　Whether he was combined
With those of Norway, or did line the rebel
With hidden help and vantage, or that with both
He laboured in his country's wreck, I know not;
But treasons capital, confessed and proved,
Have overthrown him.—

バンコー　これはいかに、邪神實を語り得るか。

バンコー妖婆が祿言せしことのあたりたるを驚く。「邪神」或は妖魔とも譯すべし、妖婆が事ふる魔神を指す。

マクベス　アイヤ、カウドルの侯は尚存せり、借ものゝ裝束をばなにとてそれがしに着せたまふぞ。

「裝束」禮服なり只一通の隠喩としても解し得べけれど爰は特に當時(作者の時代)の叙任式を見せたるならんといふ説あり。其の説によればアンガス、ロッスの兩人がカウドル侯爵の官服をさゝげて舞臺にて裝束更めの式を行ふやうに作りたるなり云々。

アンガス　かの侯爵にてありける人は、げにいまだ存へたれども、重き御咎の下ッた

れば、失ふべきが當然の命を辛くも支ふる有樣。彼れ果たして賊軍と一味合躰なしたりしか、但しはひそかに應援なし、賊魁を助けたりしか、はた双つながら兼ね行ひ御國の破滅を企てたりしか、そはそれがしの存ぜぬところ。

原文に who was 云々とあるは he who was 云々の略、かゝる省略法はシェークスピアには間々あり。「重き御皆下り」といふ故に「辛くも支ふる」といはせたるなり。原文に line とあるは「助く」の義。又 rebel あるは爰はマクドナルドのことなり。

さもあれ、こよなき逆罪は、自白せられ、證擧げられ、全く彼れを滅し了んぬ。

これにてマクベスよろしく思入。

Mach. Glamis, and thane of Cawdor:
The greatest is behind.—Thanks for your pains.—
Do you not hope your children shall be kings,
When those that gave the thane of Cawdor to me
Promised no less to them?

マクベス　グラミスとカウドルと
マクベス傍を向きて獨語す、これを「傍白」といふ、見物人には聞こゆれど舞臺の人物には聽こえぬ積なり。わが能狂言にてすなる獨語と同ト呼吸なり。
最大なるは尙殘れり。

妖婆が豫言二つまでは的中せり第三の最大なる豫言即ち國王になるべしといふ豫言は尙殘れりと肚の中にて思ふなり。かていひきして氣を變へ
御使御苦勞に存じ申す。

アンガス、ロッスの二人に對ひていふ。胸間に磅礴たる野心を押しかくし、さらぬ體にもてなすなり。さてバンコーに對ひ小聲にて

いかに願もしとはおぼさぬか、我れにカウドルの爵位を約せし、其の妖婆等が和殿の子孫に、王位を與へん豫言しつれば。

Ban That, trusted home,
Might yet enkindle you unto the crown,
Besides the thane of Cawdor. But 'tis strange:
And oftentimes, to win us to our harm,
The instruments of darkness tell us truths;
Win us with honest trifles, to betray us
In deepest consequence.—
Cousins, a word, I pray you.—

バンコー　イヤナニ、それを悉く信ぜられなば、遂にはカウドルの爵の外に、王位をも得まほしうおぼさんずるぞ。

英文評釋　マクベス

「悉く」とは妖婆が謠言を悉く信ぜば終には王位をも望むに至るべしといふ意、enkindle とは鼓舞すといふ義に解すべし

此の一言はバンコーがマクベスに野心の萌さんかと恐れて諫めたる言葉なり。下の「さるにても奇怪至極」といふ詞はむしろ獨語の趣あれば此の諫の詞とは或は別ならんといふ說あり。いかにや

さるにても奇怪至極、人を邪道へ誘はん爲、邪神等時に實を語り、まづ些少の驗を見せて、大事におとしいるゝ手もあること。

harm といふ語こゝにては邪道の義に解するを可とす。「妖魔」原文には「暗黑の具」とあり暗黑(魔界)の器械となりて働く化生の物といふ程の義、即ち妖婆等を指す。「大事に」原文には「最も深き大切なる場合(又は結果)」とあり

以上バンコーがマクベスを誘めたる言葉なれど忽ち顧みて他人と物語る呼吸より推し測ればさまで深切なる諫言とも思はれず。バンコーが爲人を評せんとせば此のあたり殊に注意して觀るべし。さてロッス等に向かひて

イヤナニ御兩所、申しきこえたきことがムる

Cousins とは諸侯相呼ぶ時の稱呼なり「御兩所」といはんよりは「兩卿」などいはんかた品位には叶ふべきか。この白終りてバンコーはロッス、アンガスの兩人と共に少しく後へ引退り小聲にて相語る分をすと思ふべし

但し此の談話は別に意味あるにあらずマクベスに獨白ないはせんための便宜なり下のマクベスの白は看官にのみきこえて三人には聞こえぬ樣なり即ちマクベスが胸中に思念する所なりと思ふべし。我國の劇にてはかゝるあたりは總て思入のみにてすますこと十中八九の例なり。これ我が國の劇に緻密なる情趣を表現したるものゝ證き由緣の一つにやあらん

Mach.

As happy prologues to the swelling act
Of the imperial theme.—I thank you, gentlemen.—
This supernatural soliciting
Cannot be ill; cannot be good: if ill,
Why hath it given me earnest of success,
Commencing in a truth? I am thane of Cawdor:
If good, why do I yield to that suggestion
Whose horrid image doth unfix my hair,
And make my seated heart knock at my ribs,
Against the use of nature? Present fears
Are less than horrible imaginings.
My thought, whose murder yet is but fantastical,
Shakes so my single state of man, that function
Is smothered in surmise, and nothing is

Two truths are told,

But what is not.—

マクベス　（傍白）　二條までも適中せり、

妖婆の眼目二條まで的中せり

これ正しく天が下を、すべらぎといふを表題にて、大活劇の演せられん幸先見する序曲ならん

入物の白に梨園の詞を用ふること作者の慣手段にて其の例いくらもあり。序曲とは幕開前の唱ふ歌にて多くは當一幕の大意などを語るものなり今妥貼の字面を得ざれば假に序曲と譯したり

眼目二ヶ條まで的中したるによりて考ふれば國王となるべしといふ眼目も恐らくは的中すべしとマクベスが肚の中にて思へるなり。さてかく獨語しつゝも其の氣をさとられまゝとて方々かたじけなく存じ申す。

といふ。こはアンガスとロッスとへの挨拶なり、使者を勞ふ言葉なり。さてまた獨語す。

この奇しき衝動は、惡にもあらじ、善にもあらじ、惡ならば、など實をもて端を開き大事成就の保證を與へん。

solicitingとは何となく心を衝動するものあるといふ心いられの義なり。earnestとは已に前にも見えたる手附金といふ語なれどこゝには保證と譯したり

已にカウドルの侯爵たり……

善なる證據には我れは妖婆のいひし如くカウドルの侯爵になり了りぬこれ豈大事成就の前兆ならずや。

まッた善ならば、例にたがひ、かく奇しく心亂れ、かゝる怖ろしき幻影現れ、身の毛よだち、沈靜なりし心臟の、胸うつばかりに鼓動なさんや。

「例にたがひ」原意は「性の習ひ」即ち日ごろの經驗に反してといふ義。「奇しく心亂れ」の原語 that suggestion なり。此のsuggestionといふ語をtemptationといふ義に用ふること間々あり、即ち誘惑の義なり。「胸うつばかり」原文には肋骨を打つとあり。「沈靜なりし」いろ〳〵の解あれど蓋し本文の意に外ならじ。

若し此の心地惡しき事の兆ならずば斯くわれをして悚然たらしめ鮮血淋漓たる弑逆の幻像を心眼に映ぜしめ、平然とおちつきてありし心臟を鼓動しはげしく肋骨を打つほどに動悸を感ぜしむることなからんにといふ程の義なり。

想像は現實に優るならひ、わが怖ろしき弑逆はまだほのかなる幻なれども、心はために撼案され、臆測に作用塞がり、現ならぬものゝ外に現なるものも無し。

「想像云々」喜ばしきことも怖ろしき事も未然のうちが感深し現に其の物に出であひたる時よりもかうかあいかと想像する間の恐ろしさは一倍なる習ひなりといふ意。こゝのfearといふ語は「怖しき事」といふ義。「ほのかなる」はbutといふ語を義譯したるなり。「心は爲に」原文は人の心を一國に喩へたりsingleとは應援もなき孤獨の國家といふ程の義にてかよわきといふ義を含

英文評釋　マクベス

めり。「臆測に云々」行末の事をさまざまに疑惑描畫するが事となりて心の作用はそがために塞がれたりとの意。「現ならぬ云々」今目の前に無き未來のことのみに心を奪はれて現在の事物は在りとしもおぼえずとの義。

以上マクベスが自問自答の胸臆なり、試逆の念胸間に彷徨し只管未來の事のみを想像するが爲にほと〳〵現在のわれを忘れんとしたる樣をいへるなり。

Ban. Look how our partner's rapt.—

Mach. If chance will have me King, why, chance may crown me,
Without my stir.—

バンコー　御覽ぜよ同僚には、何故にや思案にかきくれ
これはバンコーが二卿にさゝやける言葉なり。

マクベス　果たして王となるべくんば、ム、ものづからにも冕を得つべし、たとひ
わが手は下さずとも。

chance は偶然の義即ち運の義、stir 所爲といふ程の義。
若し偶然の運によりて王となり得べきものならばわが手をば下さずとも九五の位にも即くことを得べし、試逆の念は思ひとまるべきかと一たびは思ひ惑へるなり。

Ban. New honours come upon him
Like our strange garments, cleave not to their mould

But with the aid of use.—

Mach. Come what come may,
Time and the hour runs through the roughest day,

バンコー　新に賜はりたる官爵は異樣なる衣服にひとし、被なれざる其のうちは
身にそぐはぬものでムる。

これもバンコーが傍よりマクベスを評して二卿にさゝやける言葉と見るべし。「被なれざる」習ひの助けなくてはとあり。「身にそぐはぬ」原文の意は其の型にシックリはまらぬといふ義。

マクベス　(傍白)　來たれ何ごとまれ、荒るゝ日も、やがて時經つ。

「何事の出來するともまゝよ速べて運を天に任せん荒れに荒れたる日も時刻たてば夕なぎの空となる例なればと」獨語するなり。「時たつ」原文には「時と刻とはいと荒き日をも通過す」とあり。runs といふ働詞本來は單數の主格に應ずべき働詞なりされど時と刻とは暗は二つなれど其の意は一なれば當時の文法にまたがひて斯くは用ひたるなり。是の如き例外にも數々あり。此の白の意につきて管々しく解したるもあれど要するに「いかなるつらき日もつひには長閑なる夕べとならざるべしや」といふ程の義にて蓋し當時の俚諺をいひかへたるものならんとクラークはいへり。

Ban. Worthy Macbeth, we stay upon your leisure.

Mach. Give me your favour; my dull brain was wrought

With things forgotten. Kind gentlemen, your pains
Are registered where every day I turn
The leaf to read them. Let us toward the king.—
Think upon what hath chanced, and at more time,
The interim having weighed it, let us speak
Our free hearts each to other.

Ban. Very gladly.

Macb. Till then, enough.—Come, friends.

[*Exeunt.*

バンコー　トクミツよりの一回御便宜をあらため申すべ。

いざはバンコーがトクミツを理屈する間なり leisure とは「君下の御都合即ち暇」といふ程の義。

全文の原意「われ一回貴殿を使ひ申すはやめ立あれ」。

マクベス　あら難しあるべきあるべしと思ひ出だすに心をとられ

favour とは賞恕の義。

雨卿の御心労は心に銘して長く日毎に拜讀なさん。いざさらば君のみなさん。

記憶の帳面に書記し永く日毎の頁を繰る可からずとなり。マクベスが日毎の甘言なり。

バンコーに向ひ今暫に

イヤナニ今日の儀に就いては和殿も宜しく御思案あるべし後日よく〳〵御合

なし互ひに包まずこのうちを

バンコー　これはよりもねがふところ。

マクベス　おうそれまでは此の儀は此のまゝ。いざたまへ方々。

（一同退場）

SCENE IV.—Forres. A Room in the Palace.

Flourish. Enter DUNCAN, MALCOLM, DONALBAIN, LENNOX, *and Attendants.*

第四場　フォレス王宮の一室

喇叭亂吹　ダンカン、マルコム、ドナルベイン、レノクス、

從臣數人と共に登場

Dun. Is execution done on Cawdor? Are not
Those in commission yet returned?

ダンカン　イカニ、カウドルの死刑をば行ひつるか。所命附たるものどもはいまだ

歸りまゐらぬるか。

Mal. My liege,

They are not yet come back. But I have spoke
With one that saw him die: who did report,
That very frankly he confessed his treasons,
Implored your highness' pardon, and set forth
A deep repentance. Nothing in his life
Became him like the leaving it; he died
As one that had been studied in his death
To throw away the dearest thing he owed
As't were a careless trifle.

ダルコオム　ハッ、Sまだ参着せず候、くとも最後に彼れを見し者の、先刻報じて候ふには、彼れ尋常に白狀なし、謹んで陛下の仁恕をねがひ、後悔の色面に見れ、かねて死ぬる業を習ひうかべてありけんやうに、命を棄つること敝履のごとく、いと殊勝なりし最後の振舞、これこそ彼れが一生のほまれならめと聞こえ候ふ。

my liege とは我が大君の義。原文には省けり。have spoke 今の文法に從はゞ have spoken とあるべきところなり。set forth とは profess 若しくは exhibit の義にして顯すと譯すべきものなり。「死ぬる業を習ひ浮べてありけんやうに」study といふ語は梨園の科語にして熟達といふ程の義、例へば荒事に study せりといへば荒事に熟達せりといふにひとし。爰はカウドルの死に就くこと顯するが如きをほめて死ぬる事に熟達せる者の如しといふなり。「命」原文には「彼れが有る最も尊きもの」とあり生命のことなり。「敝履の如く」原文には「卷も心を注めざる塵屑のもの」とあり命を抛つこと敝履を棄つるが如しといふ意。「一生のほまれ」彼れが一生中の美事、其の死際のいさぎよきを以て最上とすといふ義。became とは grace の義にして飾る、若しくは譽を與ふなど譯すべし。

カウドルの最後の模樣を those in commission 死刑執行を申附けられたる者の口にいはしめすしてマルコオムにいはしむる是は一種の省筆にして東西古今の作者が慣用の法なり。

Dun.

To find the mind's construction in the face:
He was a gentlemen on whom I built
An absolute trust.—

ダンカン　面によって、心の是非を見分けん術もなし、ア、カウドルこそはあくまでも、予が信任せし縉紳なりしに

mind's construction とは心の解釋の義、こは此の作者の特殊なる文法なり。デイトンは心の結構といふ義に解したれば解釋と訓むべし。「彼れこそは云々」原文には「彼れは予が圓滿の信任を築き置きし縉紳なりき」とあれど爰はマクベス等が入り來たれるを見て俄に言葉をとゞめたる氣味ありと知るべし。

Enter MACBETH, BANQUO, ROSS, *and* ANGUS.

O worthiest cousin!
The sin of my ingratitude even now
Was heavy on me. Thou art so far before,
That swiftest wing of recompense is slow
To overtake thee: would thou hadst less deserved,
That the proportion both of thanks and payment
Might have been mine: only I have left to say,
More is thy due than more than all can pay.

マクベス バンコー ロス アングスト登場

オ、従弟の如しか。

ハ主マクベスの入り来たれるを見ていそがはしく呼びかけたる間なり推量の意を含みたりと知るべし。

今しがたことに負はる罪をばいまこゝろさるしら存ぜしところ、

原文には「今も今ありてわが負債の罪わが心の上に重かりき」とありて主マクベスに謝する謝恩の意を表せり俗解すれば「そなたの功勞に十分酬ハンとが出来ぬのみ迄だすまなく思ってゐた。」

おゝばれ和君の功勞はいと高く身に冲り、疾き報賞の翼も及ばず。

マクベスの勞功を大略に申ク報賞を小略に謂ク功大にして賞及ばずといふ意なり。

今「段低くかりせば相應に感賞せんと、朕が力にも適ふべきに。

原文の直譯は下の如し「感謝と報酬との相應の割合が予が力の中にありたらんことを望あるらにおゝこの功勞の1ときに酬ひたらんことを欲するなり」原文はこの意を縮めて表せり。mine は in my power といふ意に解すべし。

ものとが得べき報賞は我が全力もて報い得んよりもしばにおそり、人しばにおそるといふより外には言葉もなし。

thy due おゝこの手より得べき筈のもの即ち報酬の意なり more than more いたく力をいれていふる言葉なり。

ダンカン王の人を知る明無き由は前にもいへり。カウドルの叛逆によりて人心の測ひ知りがたくして信ず可からざるを歎じながら其の舌いまだ乾かざるにマクベスを信じ用ふる此の知し。所謂1を知りて11を知らざる也。又ダンカンの謝辭の淺薄なるを味ふべし。

Macb. The service and the loyalty I owe,
In doing it, pays itself. Your highness' part
Is to receive our duties; and our duties
Are to your throne and state, children and servants;
Which do but what they should by doing everything

Safe toward your love and honour.

マクベス　ハヽそも臣たるの本分は、之れを行ふやすなはち報なり。

service and loyalty と は loyal service といふ義にて「忠義の務」といふ意なり。形容と名詞とを二分して二つながら名詞の形にして並べ用ふること此の作者の慣用なり、すなはち語は二つなれど意は一つなり。此の故に pay と いはで pays といふ pays は單數の主格に伴ふべき動詞なり。owe はわが負ふと同じ義に解して可し。pays itself 爰には「すなはち報なり」と譯したり。全篇の大意は「臣僕たる業は其の君に對して忠勤を盡すことを得れば取りも直さず大なる報賞を得たるにひとし此の上もなき本望なり何ぞ別に報賞を望み申さんや」となり、マクベスが王に對する僞善の言なり。

また陛下の御分は、そを受け納めたまふにあり、臣等は皇室の兒孫、國家の臣僕、陛下に對しまゐらせ愛敬の微衷に背くことなく、よろづ執り行ひ候はんは、固より臣等が至當の務御勅なか〳〵に勿躰無し。

safe toward 歩々、直譯は「陛下の愛と尊敬との方角へ安全に」とあり「陛下を愛敬する心に少しも違はざるやうに」といふ義なり。「御勅なか〳〵に云々」は意を斟みて添へたり、口に蜜ある賊臣が腹の劍のするどさを想ふべし。

「臣等は云々」此のところ原文には「而してわれ〳〵の本分は」とありて下段の which といふ代名詞も此の本分といふ語を承けたり。

此のうち王はマンコーを迎へ握手して

Welcome hither:
Dun.
I have begun to plant thee, and will labour
To make thee full of growing.—Noble Banquo,
That hast no less deserved, nor must be known
No less to have done so; let me infold thee
And hold thee to my heart.
Ban.
There if I grow,
The harvest is your own.

ダンカン　ホヽよくぞ參りし、我れ已に移し植ゑてかく其方を培養ひ初めたり、此の上は力を盡くし尙彌生に生長たせん。

われ其方を登用しはじめたり此の上はますます立身するやうに力を盡くし得さすべしといふ意を植物に喩へていへり。ダンカン王の仁惠に厚きを看るべし。

バンコー　いみじきバンコー、其方が功勞も決してマクベスの下にあらず、まッたいとも〳〵いみじきバンコー、其方が功勞も決してマクベスの下にあらず、まッたく劣らざるゆゑよしをも、彼れとひとしなみに知られざる可からず、いざやかき抱きてわが胸のほとりに保たん。

此のところ王バンコーが手を取りてれんごろに其の功を賞するこなし十分あるべし

バンコー　ハヽありがたき御惠の、露に沾ほひ生立ちなば、稔らん果實は敵慮のまに〳〵。

「君が胸のほとりに生出て幸に生長することを得んにはその木に生ふる果實はいふまでもなく大君の叡慮のまに〳〵摘とらせたまへ」となり。grow といふ語爰にては將若といふ義と增長といふ義と双つながらを含めり。王が植物に喩へたるを承けて、われ若し君が寵用を得て榮ゆることを得ば紛骨碎身を厭はずして君が爲に忠義をはげむべしと答へたるなり。「君が御惠云々」義譯の添詞なり。

Dun.

My plenteous joys,
Wanton in fulness, seek to hide themselves
In drops of sorrow.—Sons, kinsmen, thanes,
And you whose places are the nearest, know,
We will establish our estate upon
Our eldest Malcolm; whom we name hereafter
The Prince of Cumberland: which honour must
Not, unaccompanied, invest him only,
But signs of nobleness, like stars, shall shine
On all deservers.—Hence to Inverness,

And bind us further to you.

ダンカン　過分なる悦ばしさに、不覺の落涙いたしたわえ。

原文の直譯は「わが澤山なる喜び、あまりの充分に餘りあまりて愁の雫の中に其の身を藏さんとす」とあり。愁の雫とは涙のことなり。爰の大意は皆が忠義の志厚きをきゝて嬉じさ胸に餘り喜び極まりて悲しみを覺えそゝろに涙おつるぞ」といふ義なり。ダンカン王の質直にして虛淺きを表し得て餘あるが上に無邪氣なる老王の涙脆きを寫したる處味ふべし。

子等よ、親族よ、侯爵等よ、まツた皇室に因深きともがらよ、うけたまはれ。

「子等」マルコーム、ドナルベインを指す。「親族」マクベスを首として指せるか。「皇室に因深き云々」血統身分の最も皇室に近きといふ程の義なりこれもまたマクベスを主として其の他をも指せる詞なり。「うけたまはれ」原文には「知れよかし」とあり「下にいふ如く取定たればさやう承知いたしてくれよ」といふ意なり。

朕このたび長子マルコオムを我が繼嗣と定めたれば、今より後は一の宮をカンベルランドの公と稱ぶべし

ホリンシエッドの蘇史によるに當時蘇國の王位は世嗣の定ならざりき。また王在世の間に繼嗣を定むること間〻あり、かゝる時は繼嗣と定まりたる君をカンバルランドの公爵と稱せしこと猶英國にて皇太子をウエールス公爵と稱するがごとし云々。

estate とは爰にては威嚴若くは位といふ義即ち王位若くは王位たるの威嚴といふ義なり。will

establish の will は可しといふ例の意義よりも強く欲すといふ義よりも強く決したりといふ種の義に解すべし。we は人君みづから稱する時の詞、朕といふに同じ。古へは單數なりしが中世より複數の代名詞を用ふる例となれり。

たゞし件の榮爵はそれに伴ふ叙任もなく、只ひとかたにのみさづくべきにあらず、高き位の標章は諸功臣の頭上にも、星の光と輝くべきぞよ。

「只ひとかたにのみ云々」嘉太子にのみかゝる榮爵を賜ひて他の者をなほざりに棄置かんは朕が本意にあらず、否、苟も功勞ある者どもは高位高官の徽章を星の如くに身に著くべきぞ、即ち「おのゝ〳〵その功勞に應じて昇進せさすべきぞとなり。

いざやこれよりインヴァルチッス〈〇太義ながらおことにも。

「インヴァルチス」マクベスが居城なり。「太義ながら」原文の直譯は「更にまたおことの世話にあづからん」といふ程の義、これはマクベス〈の挨拶なり。「已にいろ〳〵の勞をさせたが更にまたそなたの居城へまゐりて厄介になりませう」といふ心なり。

Mach. The rest is labour, which is not used for you:
I'll be myself the harbinger, and make joyful
The hearing of my wife with your approach;
So, humbly take my leave.

Dun. My worthy Cawdor!

マクベス　陛下のおほんために用ひされば、息めるも猶勞するがごとし。

これもまた賊臣が甘言なり。君の爲に用ひざる時間は休みてをりても心苦しくつらき勞働をなしつゝあるにひとしとなり。

それがし御案内の役目うけたまはり、これよりたゞちにまかりこし、行幸のおもむき妻にも知らせ、かれが耳をよろこばせ候はん。

「御案内の役目」harbinger を譯したるなり「ハービンジャル」とは先驅して王の舍を定め置くことを司る皇室附屬の官吏なり。hearing とは爰にては耳と譯すべしかゝる用ひかた外にもありマクベスの言葉の彌〻いで〻彌〻蜜よりも甘きを味ふべし。

まからば御免下さるべし。

これにてマクベス圖洲張の足つき先にたちて幾足か行く、王その背を見送りて感心の思入れ。

ダンカン　ハテいみじきカウドルちやよなア。

さよろしく見送る、我が劇ならばマクベス花道の中程にて思入

Mach. [*aside.*] The Prince of Cumberland!
That is a step
On which I must fall down, or else o'erleap,

For in my way it lies. Stars, hide your fires:
Let not light see my black and deep desires:
The eye wink at the hand; yet let that be,
Which the eye fears, when it is done, to see.—
[*Exit.*]

マクベス　（傍白）カンベルランドの公爵とよ。これぞ行手をさへぎる階段、若し飛越えずば、つまづくべし

マルコオムが立太子の由なきゝてマクベスが逆心いよ〳〵募れり。繼嗣のいまだ定まらざる間はダンカン王の老衰を頼みにして何事も運に任せんと思ひ定めてありしがかく繼嗣の定まりたる上はもはや血を見すして王位を得べき望絶えたり。此の上は王をもマルコオムをも無きものにせん、それにつきては此宵わが居城に行幸あるこそ幸ひなれ、こよひを過さゞるべしと思ふなり。step 爰にては階の一段をいふ。此のところの直譯は「それぞ階の一段、そが上につまづきて倒るゝが、まからざれば飛越えざる可らず、わが行手に横はれゝば」

オヽ星よ、願ふは汝が光を包め、その明き光をしてわが黑き胸を照らさしむるな。

「わが黑き云々」「わがよこしまなる重大の望」といふ程の義「明光」に對して「黑き」と用ひたる文采なればわざと直譯せり。deep は heartfelt 若くは intense の義にて甚しきといふ義あれば本文の如くに譯せり或は「ゆゝしき望」とせば當らんか。

こよひ弑逆を行はんといふ心あるゆゑ先づ屋にいのりて除め夜の黑暗ならんことを欲すこれ色眼鏡をかけたる時には例よりもメカ〳〵しき振舞をなす盟の卑劣心にひさしき怯懦の心邪なり。マクベス勇武三軍に將たるに適すれども眞心の餘を恐るゝこと七才の兒女が狂犬を恐るるよりも甚し。

手がするわざをば目になど見せそ。

直譯には「眼をして手に對しては眼してあらしめよ」とあり恐は前文によりて推すべし。

事成つたる其の後には、たとひ見る目のおのゝくとも、ム、今宵過ごさず。（退場）

which は that を承けたる代名關係詞なり。Let that be とは「そのことをして出來せしめよ」の義。「こよひ過ごさず」といふ語は件の原文の意を斟みて義譯したる詞と知るべし。

Dun. True, worthy Banquo: he is full so valiant,
valiant,
And in his commendations I am fed;
It is a banquet to me. Let us after him,
Whose care is gone before to bid us welcome:
It is a peerless kinsman. [*Flourish. Exeunt.*

ダンカン　しかにも其方のしゝる如く、彼れは至ッて勇敢なり、彼れをたゝふるほめことばは、わが爲にはこよなき饗應はとゝ〳〵滿腹いたしたわえ。

Worthy Banquo とかよのバンコーといふ語は文には一る同まゝ〳〵川ひにくし。「滿足」其方はゝ
ゆ皆々がマクベスを稱賛するを聞きてわれは嬉しき胸に滿ちゆわが愛する從弟をほめらるゝ
はわれに取りては何よりの勝走山海の珍羞をつらねてもてなさるゝより樂しきなり。
老王がマクベスを目送してバンコーが彼れを稱賛するをきゝながらポク〳〵と打送ゞる樣を
認しだり。

いざや彼れが後をまたはんわれをもてなしのもうけせんとて先だちいにし心
とらひバテ北ひなき頼もしの親戚ちやよなア。

原文には「彼れの心配はわれを待遇する準備せんと先にたちて往きぬ」とあり。これは「彼れ
は待遇せんための心とらひを胸にもちて先にたちて往きぬ」といふ意なり。「心とらひしつゝ彼れ
は」といふべきを「彼れの心とらひは」とやうにものすることゝ假語には間々ある破格の文法なり
一種の同義語として看るべきものなり。he といふべきを it といふこと外にも例あり。或はいふ
深意の語ぞ。

（明以凱吹　一同退場

正誤

マクベス評釋第三十二頁十三行の我。の二字は衍
仝　　第四十三頁二行のは。はぞの誤

SCENE V.—Inverness. A room in MACBETH's Castle.

Enter Lady MACBETH, *reading a letter.*

第五場　インバルネス　マクベス居城の一室

マクベス夫人書簡を讀みつゝ登場

マクベス夫人が容貌風姿についての論まちゝなり。ヘミヨル、アクーズが論きたるによれば大が
らにしてたくましき雄々しき性質の如くなれど思ふにこゝにはあらずして四十マクニルが任細に夫
人が婦人を離れてその容貌に及びたる論文例の Mad Folk of Shakespeare のうちにあり。その略に曰はく
一る神經過敏なる性質は妖艶なる風手をそなへて理路すこぶる帶び體格はたキヤシヤなりしや明
けしぞ。性理上より推論せるマクニルが論證確實にしてほゞ一動ずべからざるが如し。此等衆
説の大概はフルチスが集註に錄いて見るべし。

Lady M. They met me in the day of success; and I have learned by the perfectest report, they have more in them than mortal knowledge. When I burned in desire to question them further, they made themselves air, into which they vanished. Whiles I stood rapt in the wonder of it, came missives from the king, who all-hailed me 'Thane of Cawdor;' by which title, before, these weird sisters saluted me, and referred me to the coming on of time, with 'Hail king that shalt be!' This have I thought good to deliver thee, my dearest partner of greatness, that thou mightest not lose the dues of rejoicing by being ignorant of what greatness is promised thee. Lay it to thy heart, and farewell.

夫人　「凱旋の日彼のともがら途中にいで迎へ候ひき、われはいとも確實なる知らせによりて彼れらの謂へることの適に人の智に越えたるを知りぬ。

マクベスが途中より送り越せる書簡の文なり。「彼のともがら」とあるは妖婆等を指す。「いともたしかなる知らせ」直譯は「最も圓滿なる報知」とあるべしされどこゝに知らせといふはおのが經驗といふ意なれば精確なるといふ意に圓滿と解すべき由諸註釋家の既なり即ち「妖婆等が躓冒せりしことは人智以上の占冒なる由はわれ正に實驗によりて了知しをはんぬ、われは彼等が躓冒せりしにたがはずカウドルの侯に叙せられたり」といふ意。

さてなほも問ひたゝさばやといらだちしに、彼れらつと消えて氣となり了んぬ。

英のシッドンス女は女俳優の鉾々たるものにてマクベス夫人に扮して絶技の譽ありしが「氣となり了んぬ」と讀みはてゝの愕の思入、空前の出來にして面帽なるマクベス、バンコーが親しく妖婆等が消滅を目送せし時の愕の思入にも十倍の感ありきといふ。burn は「心燃ゆ」といふ義にて「いらだつ」と譯す。

あまりの怪しさにわれかの心地なりしほど、勅使まゐり、われを賀ぎてカウドルの侯爵とぞ呼びたる、そは其の前つかた妖婆等が祝詞に用ひたりし爵なり、さかのみならずなほ行末のわが身をもいはひて「万歳國王となりぬべき君」とこそほぎ候ひし。このこと身の光榮を分つべき愛し人に傳へずもあらば、行末の榮達の御身の上にも契られたるをふつに知らでやおはさんずらん、いとくちをしかるべしとてなん。此のむね心えたまひてよ、安らかにおはせ」

「このこと云々」以下譯なり直譯は「この事を光榮をわかつべき最愛の妻に傳ふるが當然なるべしと思ひつ、そは御身に約束せられたる光榮を御身のいまだ知りたまはざるがために悅喜の分前を失ひたまふやうのことなかれかしとてなり、このことを御身の心の中にとめてよ云云」なり。what greatness は that greatness which を解すべし。rejoice は悅喜の義なれど譯文には榮達といふ詞の中に含めたり榮達を rejoice の直譯と誤る可からず。Lay は只「据置け」といふ程の義 farewell は人に別かるゝ時にいふ詞「自重せよ」といふ程のこゝろ、故に「さらば」といふ義に譯すこともあり。これにて書簡の文句は終れり

Glamis thou art, and Cawdor; and shalt be
What thou art promised. Yet do I fear thy nature;

已にグラミスの侯爵たり、またカウドルをも兼ねたまひぬ、やがて一定約束の、その御身ともなりたまはん。とはらふものゝ。心にかゝるは御身の本性。

It is too full o' the milk of human kindness
To catch the nearest way. Thou wouldst be great;
Art not without ambition: but without
The illness should attend it: what thou wouldst highly,

That wouldst thou holily; wouldst not play false,
And yet wouldst wrongly win: thou'dst have, great Glamis,
That which cries 'Thus thou must do, if thou have it;'
And that which rather thou dost fear to do
Than wishest should be undone. Hie thee hither,
That I may pour my spirits in thine ear,
And chastise with the valour of my tongue
All that impedes thee from the golden round,
Which Fate and metaphysical aid doth seem
To have thee crowned withal.—

甘き慈悲に富みたまへれば、最も手近き成就の徑を、取りたまはんことおぼつかなし。

「甘き慈悲云々」原文には只「仁愛の乳汁」とのみあり、此の句人口に膾炙して寔には諺のやうになれり。夫人がマクベスを評して仁愛深しといふは蟲眞目の沙汰なめり、その君を弑せんとする逆臣を仁愛深しとは背理なりといふ論あれど夫人が謂ふ慈悲とは如何なる意なるかは下にいふ所と照らし合せばいと明かなるべし。「最も手近き云々」最も手とりばやき方法といふ意、弑逆を指す。

御身日ごろよりいみじき大望はおはしながら、それに必ず伴ふべき不正心をもたせたまはず。

此のあたり原文簡古にして辭意双つなから奇峭險怪掘き牽に譯すべくもあらずわきて敬語を添用して譯するときは辭意ともに冗漫となりて夫人が性情を寫すに適はずわざと詞を逐うてほと〳〵直譯のやうにものしたれば讀者須からく原文に就いて妙趣を味ふべし。

「それに伴ふべき云々」その欲望を遂げんとすれば不正の心なくば叶はれどわがつまには此の心なし即ち大殘忍の勇氣なしといふ意。wouldst は欲すの義

いたう得まくおぼするものを、正しき手段をもて得まくおぼし。

或は此の段を解して「御身が得まくおぼす高く貴きものを、そを云々」さやうにいへれど穩かならず。highly は例の如く尋常の副詞に解して「いたいたう」又は「いみじう」など譯すべし。

きたなき振舞をば厭はせながら、不正なるを得まくおぼす。

原文の逐詞譯なり「不正不義の振舞を行ふことは甘んぜずありながら不正ならでは得がたきもの(即ち臣下にありながら國王たる位)を得まくおぼす」といふ意

以上の句法これを照對(コントラスト)又はアンチセシスの句法といふ、白をもて黑に對し剛をもて柔に對する樂術家慣用の手段と同一理のものにて奇しからられど此のマクベスの劇は殊に照對の趣味に富みたり。第一段第一場に於て fair is foul, foul is fair と相背きたるものを照對して局を開きてより全局を結び了るまで每節の脚色、人物、句法、いづれも照對の法に基けるもの〳〵ごとし。內柔にして外剛なるマクベスと外面如菩薩にして內心夜叉の如きマクベス夫人とを對したるをもてこ

の最もいちゞるき者とせばはゞめ剛にして來に柔なるマクベス夫人とはゞめ優柔にして來に果敢なるマクベスとの相異の如きも其の中の一例にや加ふべき。此のあたりハズリットの評論一讀の價あり。

嘯高大きグラミスぬし、御身が欲しとおぼすものは「君もしわれを得まくおもはば斯々せよ」と呼ばふにあらずや。

此段解釋まち〳〵にて種々のあげつらひいとむづかし多數の說を採りて本文の如く譯しつ。蓋し異說は句讀の論なり前後の關係より考ふれば引抄文は「かく〳〵せよ」の處にて切るを最も妥なりとすべし。

「御身が欲しとおぼすもの」とは王位(王冠)をいふ、さてその王冠に向ひて「如何にせば汝を手に入れ得べき」と問はゞ王冠は必ず「かく〳〵せよ」と答ふるならんとの意かいと簡淨にいへるなり。「かく〳〵せよ」とは暗に王を弑殺せざる可からずといふ意を匂はしたるなり。下に「それぞ即ち」とうけていへるは此の「かく〳〵せよ」といへる句の中に籠りたる弑逆をさせるなり。

それぞ即ちわが夫がなさざらんと希ひたまふよりは爲すを憚りたまふところ。

and that which とある此の that と which との間に is the act といふ詞を加へて見ば文義やゝ明かなるべし。即ち「これ御身が爲すを憚る業なり」とやうに解せらるべし。此の段尙くはしくいへば「王を弑することは御身が本心に行はずして臣かんと希ひたまふにはあらずしむしろそを行ふことを憚りたまふのみならん、わが手を下さで王冠を得る術あらばなど、だゆたひたまふならん」と夫が心をおしはかりてその優柔不斷なるを咎むる言葉なり。

疾くこゝ〳〵來ませかし。御身が耳にみづからが此の魂を注ぎ入れ此の猛き舌の根もて宿世怪しき不測の援助が御身の頭に加へうずる黃金の環と御身とを隔つるものを罵懲さん。

that は「何々してんために」とやうに戻りて訓む詞と知るべし。valour は胆力など直譯すべき詞なり。「黃金の環」直譯なり金環とは黃金冕のことをいへり。fate とは宿命の義 metaphysical とはこゝにては越自然即ち人間以上の義なれば二者を綜べて本文の如くに譯しつ。which 以下の直譯は「そなもて宿命と人間以上の援助とが御身にかうふらせまくほりせり」といふ意。withal は with (もて)といふ程の義。doth seem をゝンタルは doth aim と解釋せり

Enter an Attendant.

What is your tidings?

Att. The king comes here to-night.

Lady M. Thou 'rt mad to say it—

Is not thy master with him? who, were 't so,

Would have informed for preparation.

Att. So please you, it is true: our thane is coming:

One of my fellows had the speed of him,

Who, almost dead for breath, had scarcely more
Than would make up his message.
Lady M. Give him tending;

使臣登場

何ごとなるぞ。

使臣　此よひこのところゝ陛下御臨御にぞりまする。

夫人　ヱ、何をいやるぞいの、殿は陛下と共に在ぞゝるや若しもうとゝに在ぞんには、御ぞまらけの爲にかねて御報知のあるべき筈。

「ヱ、何を愚夫には「ぞいふぞなだは正氣であるまい」ぞあり、あまりのゆゝしなき報道に惚然たるぞ惑し狂て條理あり。「殿はこゝ」ぞいひいつる前に思入あるべし。「殿」はマクベスを指す

使臣　恐れながら此の議相違ぞりませぬ使ぞまにも御こしにぞりまする、やつがれが同僕一人殿ぞまに先だち馳歸り、息もはと〳〵絶ぞゝにて御使のもゝびきばかり辛うして申述てぞりまする。

夫人　そのものぞいたはりつかはしや。そやつこぞいみたき消息をばもたらしつれ

He brings great news. [*Exit Attendant.*] The raven himself is hoarse
That croaks the fatal entrance of Duncan
Under my battlements. Come, you spirits
That tend on mortal thoughts, unsex me here,
And fill me, from the crown to the toe, top-full
Of direst cruelty! make thick my blood,
Stop up the access and passage to remorse,
That no compunctious visitings of nature
Shake my fell purpose, nor keep peace between
The effect and it! Come to my woman's breasts,
And take my milk for gall, you murdering ministers,
Wherever in your sightless substances
You wait on nature's mischief! Come, thick night,
And pall thee in the dunnest smoke of hell,
That my keen knife see not the wound it makes,
Nor heaven peep through the blanket of the dark,
To cry, 'Hold, hold!'

使臣退場

鴉の聲もうら枯れてわが城郭へダンカン王がゆゝしき入御を呼ばふなり。來よ怖ろしき精靈らよ、我が女の性を奪ひ頂より足の端さきまで無慚の心をみなぎらせよわくまで凝らせよわが血汐を。女々しき心が殘忍なる此の企を搖蕩し大事の妨害せざらんため、慈悲の通路たちふたげや

「鴉の聲云々」或はいふ使者の息たえ〳〵なりといふを聲のうらがれたる鴉の不祥を告げがほなるに喩へたるなりと、さりながら鴉はいづこにもある鳥なればこゝは眞の鴉の聲が凶兆を示してダンカンが最後を知らせ弑逆の成功をほのめかすなりといふ意に解するかた凄味一ほにきこえて面白かるべきか。クラレンドン版のクラーク、又はモーパリなど前説なれどロルフはジョンソン等數家と共に後説を主張せり。「わが城郭」といふは傲慢にして夫をも呑める夫人が本性を見せたる詞なりといふ説もあれどこゝはロルフがいへる如く此の場合の自然の詞ならんのみ深意ありと釋するは例のイヽホがなるべし。「精靈」人間の惡事を助長せざる魔物を指すmortal こゝにては「怖ろしき」即ちdeadly 又はmurderousの意なり。unsex「女の性を奪ひ」と訓す男化せよとなり。top-full「あふるゝばかり」の義。「血を凝らせよ」原文には「血を濃くせよ」とありり「かたまらせよ」といふにおなじ血の淡しきは心ざまも洒落愚直にて血の濃くかたまれるは心も猛く胆怒殿酷なりとやうに思べりければなるべし。access とpassage 律格の都合にて用ひたるなれば二者を合せて「通路」と譯す正當には「慈悲への通路」といふべきなり。visitings,シュミットはattack (攻撃)と譯せり compunctions visitings 二字合せて意譯せば「慈悲心の猶豫」といふ程の義。keep peace「中裁す」又は「立入る」などの意。「大望と其の實行との間に入り來て中裁を試るやうの事なからん爲に」の意

やをれ、目には見えぬ惡魔らよ、人の惡事を助けんためには、いづこへもおもむくと聞く、いざ女々しきみづからが胸に入り來て此の甘き乳を苦き膽汁と變へよかし。

「惡魔らよ」原文には「虐殺の司よ」とあり虐殺の事をつかさどるagent といふ程の義。「目に見えぬ」原文には「目に見えぬsubstance(形)にて」と副詞に用ひてwait といふ動詞に添へたり意にかはりなければ本文の如くに譯しつゝ。sightless は invisible の義に訓むべし。nature's mischief とあるは「人間の惡事」と譯せば能く原義に適はんnature といふ語人の心のことにも人間といふ義にも通用すればなり。こゝに用ひたるcome は「來よ」の義なれど句拍子のために「いざ」と添へたり。「甘き乳云々」前に見えたると同じく慈悲心の義「苦き胆汁」それに對していへる殘忍の心なり。gall(ゴール)と原音の濁れるを「いのしる」とやはらげては味も無し胆汁と濁りたる音に讀ばいさゝか優ら

來よ烏婆玉の夜の空冥府の黑き煙もて汝が總身を包めかし、我が利劍の物すらん創口見せぬその爲に、また黑闇の帳ごしに隙見なさんず蒼天の「まちぬ」と呼ばぬ其のために。

「烏婆玉の空」原文には「濃き夜よ」とあり昏く無透明なる夜色をいふ。前事にてマクベスが星に請

りていくること、符節を合するやうに夜の黑ゝらんことを願ふ罪惡を行はんとする、暴あらの卑性の心術一味なり。「莫厚」は地獄、地下の常闇をいふ、そこよりもて來たる最も黑き煙をもて更に夜の總身を包めとなり。「眼ゝし」に原文の blanket といふ字につきてむづかしげに說くもあれど無(眼)といふ解釋も正確なり。シエークスピアのころ戲劇には黑幕を用ふることゝ例なりき作者カづらも折々は此の黑幕より見物人を覗見せしことありけらし梨園の樂屋圓を用ふるが鮮の作者なれば一もまがらんといふ說あり。「若天は月の光を直接には指せれど間接には天道(神の光明)をいふ意と解してよし。

Enter MACBETH.

Great Glamis! worthy Cawdor!
Greater than both, by the all-hail hereafter!
Thy letters have transported me beyond

マクベス登場

高く大いなるグラミスはしらとめらみときかゞドルの殿、その二つにもまされるわが夫、行末八千代のほまことあれば。

これは夫の入來れるよを見ていそぎよびかけたる言葉なり。この一句も皆てシドンス夫人が好酒を提しをリアにていひまはしにむづかしき呼吸ありこゝが胸に充ちたる悅樂が一時に破裂して此の行末八千代といふ句となりたるなれば語氣目まぐるしくて來來の榮えを今目のあたり

This ignorant present, and I feel e'en now
The future in the instant.
Macb. My dearest love.
Duncan comes here to-nightr
Lody M. And when goes hence?
Macb. To-morrow, as he purposes.
Lady M. O, never
Shall sun that morrow see.
Your face, my thane, is as a book where men
May read staange matters; to beguile the time,
Look like the time; bear welcome in your eye,
Your hand, your tongue; look like the innocent flowra,
But be the serpent under't. He that's coming
Must be provided for: and you shall put
This night's great business into my despatch;
Which shall to all our nights and days to come
Give solely sovereign sway and masterdom.—

Mach. We will speak further.
Lady M. Only look up clear;
To alter favour ever is to fear:—
Leave all the rest to me.

[*Exeunt.*

御玉章はみづからを行末の祥つゆ知らぬ現在の身の彼方に移しつ、當來の榮をば今眼前に見る心地。

「現在の身云々」われの現在の身は末の吉凶禍福いさゝかも知らでありけるを御ン玉づさにより てはるかに後の日のことまでも知りつゝされば皇后となりぬる曉のさまをかくいふ目の前に今感覺すとなり。さはいへど ignorant present は「例として行末の事知らぬ現在さいふ境界」さやうに廣く解するかた更に精しといふべし。原文につきて夫人が言葉の切迫したる處に激昂狂喜の趣溢れたるを味ふべし。

マクベス　わが愛し人よ、ダンカン王こよひ我家に入御あるなり。

大喜憂は双つながら言葉鋭しいはんや心中に真心と逆意との人知らぬ鬪爭ある時なや。

夫人　シテいつこゝを立たせたまふぞ。

夫人早く已にマクベスが胸底を觀破し來たる夫婦が逆意暗投瞑合す。

マクベス　明日の朝明とよおぼし定められたるによれば。

夫人　あはれ日輪その朝明を、決定見ることと無かるべし。

日輪を活物にしたる粧點なりこれを活喩(メタフヒヂカルインプリケーション)(思軒居士の譯語に因る)といふ。意は「ダンカン王を」して明日の旭日を見せしむることなかるべし」なれど日輪をして明日の朝を見させ下と換へたるが文の修飾なり。

なうわが殿よ御ン身の面は人々が怪しき事柄を讀むらん書ぞ。

わが夫といはで侯爵といふ心ありての言葉なるが如し。「御身が面色に心配の氣色の歴々と見えたるは奇異なる事柄をかいたる書の如し忽ち人々の目につかん」くはしくいはば好意もてる東道と見ゆるよりは奇怪なる心即ち逆意もてる主人と見られなんとなり。

世をあざむかんとおぼさば、世とふさはしう見えたまへや。

To beguile time こゝにては世間をあざむくとやうに解すべき也「世とふさはしう云々」世間並の面色してあれといふ義。かゝる處にては世の字最も着く time に適す

瞞眼の裏にも手にも舌にも愛敬が肝腎ぞや。陽は邪なき花の陰にひそめる蛇となりたまへや。

眼と舌とに善遇なたゝふべしといふ意は註かまたし。「手にも」とは握手などの場合をいふならん。全句の意は笑の中に刃を藏してあれとなり

入御の御ンまうけせではかなはず、こよひの大事は何事も皆みづからに任せたまへ

それぞすなはち常来の幾百たびの霜夜に無上至尊の権力をわれ〳〵夫婦が握らん緒

dispatch は management の幾措置を謂ふ。shall 〃の語にては無論「須らく何々すべし」といふ理の幾に解すべし。solely「われ〳〵夫婦のみの掌握に」を謂ふべし。sovereign sway 云々は例の通り一語に集めて本文の如くに解するがよし。

マクベス　此の儀については尚あらためて談ずべし。

言葉の字作にして短簡なれども意味長し

兎も角も只朗明に見えたまへ、顔色変ふるは怖の徴候

「面明云々」言葉なり顔色に表りたる心配の気色を見せたまふなの意。Ever 常に之訓で謂文には省けり。「顔色を変ふる云々」favour は顔色の様なり色を変ぐは怒ら人にわが心中に怖ある〃を即ち断心ある〃を見すかされん」なり。〃の白状によりて楽すると夫人は「なほまだあらためて談ずべし」といひし夫が語の中に猶疑不断の意味の外尚物あるを認めたるに似たりと

クラークはいへり。

餘の事は皆みづからに任せたまへ。

只心の底を人に知られぬやう力めたまへ餘の事はわれに任せよとなり

（退場）

SCENE VI.—The Same. Before the Castle.

Hautboys and torches. Enter DUNCAN, MALCOLM, DONALBAIN, BANQUO, LENNOX, MACDUFF, ROSS, ANGUS, *and Attendants.*

Dun. This castle hath a pleasant seat; the air
Nimbly and sweetly recommends itself
Unto our gentle senses.

Ban. This guest of summer,
The temple-haunting martlet, does approve
By his loved mansionary that the haven's breath
Smells wooingly here; no jutty, frieze,
Buttress, nor coign of vantage, but this bird
Hath made his pendent bed and procreant cradle:
Where they most breed and haunt, I have observed
The air is delicate.

第四場　ドンケン居城前

キーキヤ井に松垣　ダンカン、マルコム、ドナルベイン、バンクオ、レノクス、マクダフ、ロス、アングス、及従臣等登場

ホーボイとは尺八に似たる木製の樂器の名なり即ち開場の鳴物なり。松炬とあるは松炬を携へて道をてらしダンカン主從を案内するマクベスが家臣等なりと見て然るべし。

ダンカン　ホヽウ此の城の位置いとめでたし、肌に觸るゝそよ風もかぐはしうして爽かなり。

seat とは場所柄の意。こゝに位置と譯す。「肌に觸るゝ云々」直譯は「空氣爽かに且心地よくわが柔和なる覺官をたのしましむ」といふ意なれどかうばかりにては國俗には解しがたかるべし蓋し「柔和なる覺官」とは覺官の柔和なりといふ義にあらずして覺官に觸るゝ風柔かなりといふ義。かくの如く動詞に附屬すべき詞を名詞に附屬せさすること此作者のよく〳〵する所なり。nor commends itself こゝにては「なぐさむ」若しくは「たのしまし」といふ義に解すべし。本文に「心地よく」を「かぐはしう」と譯せしは意譯也。此の城外の風の艸木の香氣を帶びて何となく香はしきをいふ。

バンコー　神の宮居にまゐ來てふ四月の空のまらうど燕が好みの鎹細工巣を作りて候ふは大空の息のなつかしくとゝに匂へる正しきあかし。

「大空の息云々」風のことなり。「なつかしく」他を誘はんとするがやうに」といふ義。大意は燕といふ鳥は空氣の清爽なる處に巣をかくることを好めるものなりその鳥の巣がかけられたるにより推すれば此あたりは土地柄よしと見えたり。「まらうど鳥」とは夏になれば必ず來たる珍客の如しとてかくいふなり。

物じて燕と申す鳥は樓端塀柱かげあるは便宜の角々に吊床掛けまうけまた雛屋をも建て候ふ、彼等の最もすだち易く又もっとも好めるあたりは空氣おほかた爽かなりと、かね〳〵見聞及びて候ふ。

frieze は通例腰縁と譯したり大柱の上部なりこゝには「柱かげ」と意譯す。Buttress とは煉瓦などにて作りたる壁柱なり意譯して「塀」といふ。「雛屋」原文には「雛を生育する掛籠」とあり雛屋といふ詞或は當たらざるかもしられど假に用ひたり。原文中の but といふ語は「外は」と訓ずべし即ち「此鳥が吊床雛屋を建て設けざる樓端塀等は殆ど一もあることなし」とやうに訓ずべきなり。haunt とはしば〳〵往來すといふ程の義なるゆゑ「最も好める」と意譯す。

以上ダンカンとバンコーとの問答は何の意味もなきやうなれど後段の慘劇と照應していと妙なり今將に虎穴に入らんとしてありながらそを夢にも知らずしていと樂しげなる老王のさま哀れなり。まことや大かたの人間は明日居らるゝをも知らで牧場に戲るゝ羊に似たり。此の問答は簡短なれども味ひはいと深し。又修辭上よりいふも此の長閑なる問答の後に怒濤狂瀾のやうなるマクベスの獨白ありてこそ變化の妙は見らるゝなれ。此のあたりの評古人已にいひ盡くしたれば今また蛇足を加へず。

Enter Lady MACBETH.

Dun. See, see, our honoured hostess.—
The love that follows us sometime is our trouble,

Which still we thank as love. Herein I teach you
How you shall bid God yield us for your pains
And thank us for your trouble.

マクベス夫人登場

ダンカン　や、わが女刀自の來ましつるは

此の詞はヤンコーに對ひていへるなり。原文には「見よ〳〵、わが尊き女主人が」といひさしたりこゝにhonoredとあるは尊稱に用ひたるにて和訓すれば人名の下に加ふる敬語位に當たるべし故に譯文には敬語を動詞の方へ移して名詞には省くことゝせり。「女刀自」少しく穩かなられど女東道といふ和訓を得ざればかくは譯したれど「女あるじ」と訓下しても可し。

誠やつきまとふ切なる情はなか〳〵にわづらはしけれど、その眞情はあかすがに我人共によろこぶ例。されば御身におしふることあり、けふ御身等をわづらはすも朕が眞情の所爲なれば朕が爲に神の冥助を祈り、かういたづきをせさするも朕が惠ぞとよろこびたまへや。

此の段の大意は下の如し「切なる情もあまり切にして五月蠅くつきまとふときは間〳〵わづらはしく思はるゝものなり所謂惡女の深なさけなどの例なりあかれどもさるは眞情の切なるより生ずるとなりと思ふが故に五月蠅くわづらはしく思ひながら其の深切をよろこばざるを得ざるためしなり此の道理によりて今われ御身にいひきかすことあり朕が今日御身等の許に參れるは定めし右の五月蠅き深情の類ならめどその然る所以は御身等を深く愛するより出でたることなればなか〳〵に斯かる厄介を掛けらるゝを忝しと思ひ神に對ひて此の厄介を與へたる朕に褒賞として冥福を下せよと祷り又朕に對ひてはかゝる苦勞を與へたる惡を謝せよ」となり。是れ老王が嬉しさの餘りに賜氣なる戯言をいへるなりと見るべし即ち夫人に對ひての挨拶なり。Bid God yield us は「我に酬いよと神に申せ」と訓す。

Lady M.　All our service
In every Pint twice done, and then done double,
Were poor and single business to contend
Against those honours deep and broad wherewith
Your majesty loads our house: for those of old,
And the late dignities heaps up to them,
We rest your hermits.

マクベス夫人　よし我輩万事につきて七重に八重に奉公の忠義を盡くし候ふとも陛下がわが家に賜けさせたまふ深く大いなる御惠に比べ奉れば、及ばん由もなか〳〵に些少なる小弱き忠勤、先に下し賜へりし光榮といひ、此たび積み加へさせたまへる官爵といひ、何をもてか報いたてまつらん、我々夫婦は幾久しき陛

下が榮えを禱らん受施僧。

Single とは元孤獨の義なりこゝにては「かよはき」と訓す。「七重に八重に」云々の原意は「思動を二倍し四倍するとも山海の君恩に比すれば倘單一孤獨の趣ありて痛く劣れり決して敵する能はず」の義。Honours こゝにては恩惠と訓す。lords 飾る、積むの義より轉ずして「賜く」の義となる。Late の本義は近ごろなれど「此度」と訓す。「我々夫婦云々」原文には「我々君が受施僧となりて存す」とあり受施僧とは布施を受けて發はれぬる貧僧の義にして常にその檀那の冥福を禱ることをもて務とするものなり。

夫人の巧言のいと〳〵美うして前に彼れが謂へりし結かくす花の色に如何に似たるかを觀よ。

Dun.

We coursed him at the heels, and had a purpose
To be his purveyor: but he rides well;
And his great love, sharp as his spur, hath holp him
To his home before us. Fair and noble hostess,
We are your guest to-night.

Where's the thane of Cawdor?

Lady M.

Have theirs, themselves, and what is theirs, in compt,
To make their audit at your highness' pleasure,
Still to return your own.

Your servants ever

Dun.

Conduct me to mine host: we love him highly,
And shall continue our graces towards him.
By your leave, hostess.

Give me your hand;

[*Exeunt.*

ダンカン　シテ、カウドルの侯爵はいづこにあるぞ。いかで朕れ彼の人の蹤を追ひ疾くぬけ驅してそが膳夫ともならばやと思ひたりしが元より侯は騎馬の達人、ましてや刺輪の鋭さにもいやまさりたるいみじき忠心、その忠心の刺戟あれば彼れいはるかに朕に先だち家路へ馬をはしらせたり。ヤヨヤ美しく氣高き女東道、朕は今宵御身の客となるべきぞよ。

「國を追ひ云々」後れドとて接近して追尾せりといふ義。「膳夫」の原語、バルエーロルはハーピンジャルが御幸の時國王に先だちて行在所を定むる務あるが如く總ドて國王の膳部の用意を豫定することを務とする役員なり。爰は老王が戲れて「朕若し侯よりも先に此處に來らば侯の膳番となりて逆に侯をもてなさばやと思ひもうけたりき」といへるなり。「刺輪」馬を刺激する器なり靴に著けてあり。「いみじき忠心云々」刺輪にもまさる忠義の眞情が侯の心を刺激してその馬を疾驅せしめたりといふ義。「御身の客云々」御身の世話を受くべしとなり。

マクベス夫人　君が臣たる我々は、そが家人をも、その身をも、またそが有てるすべ

ての物をも且く陛下に借りたるなれば何時にてもあれ敬慮のまに〳〵陛下に献らん日ごろの存念。

「家人」子孫並に家人をいふ。「そが有てる云々」財産をいふ。audit とは最後の計算の義 in Compt とは accountable の義「計算すべきものとして又は委託セラレタリトシテ」と譯す。此の原文の譯譯は下の如し「君が臣下たるものは陛下の御意次第にてそが家人をも其の身をもその所有物をもいつにても(Still)陛下の所有として返しまゐらすべき責任あり之信ト勅命あらば直ちに借用物の決錢せんと常に覚悟してまゐりあり。Return をクラークは render と譯したれど通常の意味に解しても差支なからるべし。

ダンカン　いざ御手を借したまへ主人が許へ案内われ腰深く彼の人を愛す此の寵愛行末長くかはらざるべし。ゆるされよ女刀自。

これにてダンカン王マクベス夫人におのが手を與へて握手し先にたちて奥へ入る

（同退場）

SCENE VII—The Same. A Room in the Castle.

Hautboys and torches. Enter, and pass over the stage, a Sewer, and divers Servants with dishes and service. Then enter MACBETH.

Macb. If it were done when't is done, then't were well

It were done quickly: if the assassination
Could trammel up the consequence, and catch
With his surcease success: that but this blow
Might be the be-all and the end-all here
But here, upon this bank and shoal of time,
We'd jump the life to come. But in these cases
We still have judgment here; that we but teach
Bloody instructions, which, being taught, return
To plague th'inventor. This even-handed justice
Commends the ingredients of our poisoned chalice
To our own lips. He's here in double trust:
First, as I am his kinsman and his subject,
Strong both against the deed; then, as his host,
Who should against his murderer shut the door,
Not bear the knife myself. Besides, this Duncan
Hath borne his faculties so meek, hath been
So clear in his great office, that his virtues
Will plead like angels, trumpet-tongued, against

The deep damnation of his taking off;
And pity, like a naked new-born babe,
Striding the blast, or heaven's cherubin, horsed
Upon the sightless couriers of the air,
Shall blow the horrid deed in every eye,
That tears shall drown the wind.—I have no spur
To prick the sides of my intent, but only
Vaulting ambition, which o'erleaps itself,
And falls on the other—

第七齣　マクベス居城内の一室

ホーボイ幷に松炬　配膳の役人幷に種々の家僕等くさぐさの食器を携へて舞臺を通過す、さて後にマクベス登場

Sewer の本義は毒試役なれども後には配膳方の義となれり。service とは處によりては course の義ともなれど此にては膳椀器皿といふ程の義に解すべし。

マクベス　一擧して事終らば、如かじ速に行はんに、

此の段種々の議論ある處にて解釋者によりて原文の釋義同じからず本文は最も穩當なりと思はるゝ近世多數の說に因る。「一擧して云々」とはダンカン王を今夜竊かに弑殺してそれにて万

事首尾よく收まり何の故障もなく我が身王位に即くことを得るものならば一刀兩斷速に暗殺を行ふが上策なりといふ義。すべてマクベスが獨語なり。

暗殺の羅の中にそが結果をも搦めとり、害はなべてこれを滅し、利は悉く捉らへ得べくば——

原文の直譯には「若し暗殺がその結果をも搦めとり且その滅絕をもて成功を捕らへ得べくば」とあり是れ暗殺を鳥獸を捕ふる時に用ふる羅に喩へたるなり。マクベスの意は我れ今宵暗殺といふワナを用ひてダンカンを殺さんと思へるが若し王を殺すと同時に弑逆の後に生ずべき百般の結果(我が身にとりて不利なる結果)が悉く斷滅せられて我が身に何等の危害もなく大望成就の幸福を享有することを得べくんば——我れ敢て殺逆を行はんとなり。his surcease とある his は its の義にして結果といふ語の代詞と見るべし。surcease は斷滅の義なり。

只此の一擊のみが事の全局を盡さんには、今世の終局ならば、——

that は so that の義に副すべし。原文の直譯は「只此の一擊が此岸(此娑婆)にてだに事の全体にして且事の全終ならば」とあり、即ちダンカンを殺さば事悉く成就圓滿し尠くとも今生にては何等の恐れもなくその王位を繼承して榮華に身を終ることを得べきものならばといふ意。

只娑婆にてだに、切の海の此のさゝやかなる淺洲にてだに——

「切の海の云々」切の字を無量時の義に用ひて假にタイムの譯語とせり。時は無盡無窮にして過現未に通貫するもの猶大洋の茫洋として限涯を示さゞるがごとし人間の一生は此の無量劫に

比ぶれば刹那なり猶茫々たる海洋中の小沙灘がその大海に比していと〳〵小なるがごとし。マクベス思へらく若しダンカンを弑して安穩に今生の榮華にだに耽ることを得べくんば、只此の婆婆にある間のみにても可なり何の危害もなく平穩に一生を終り得べくば我れは未來の危險と冥罰とを恐れずして敢て現在の欲望を遂げんと。

敢て將來の危險を冒さん。

「未來の冥罰をも恐れずして敢行せん」といふ意。

とはいへかゝる場合には常に現世の制裁あり。

「とはいへかゝる弑逆などの場合にては(未來の冥罰の外に)現世の制裁といふおそろしきものあり」の意。所謂四知逃れがたく惡事遂に露見して罰の到るべきをいふ。

いささめにだに不仁を敎へば、其の例忽ち應報して敎へしものを苦しましむ。

「若し弑逆といふ不仁の所業を行ひて臣にして君を殺す例を示さばたとひ我れ王位に登るとも我が臣また弑逆を謀らん」といふ程の義。原文のまゝを釋せば「我れ只殘忍の惡例を人に示さば其の惡例は必ずや敎へし當人 inventor に返報して之れを苦め惱ますこと自然の理なり」といふ意。

公道の手に私無し、おのが盛りし毒盃をおのが唇へもさゝぐることわり。

おのれにいでつるものはおのれに返へるといふ義。公道を人に擬していふ也。即ち彼れは公平なる手をもてれば人にのみ飲ませんとてわが盛りし毒酒を必ずわれにもさゝぐるとなり。

そも彼の人の此處に在るや、その信任に二重の故あり。

「彼の人」ダンカン王を指す。王のわが家に臨御ありたる二重の信任を具へたまへり我が二心無かるべきを信じたまふべき理由二重なりといふ義。但し原文の trust といふ語こゝにてはむしろ安心の保證といふ意を含みたり信任と譯したるは精ならず。

マクベスが謀叛の原因先づ現在の罰を恐るゝ處より來りて後に倫理上の原因に及ぶ。且未來の冥罰を恐れずといふ言葉によりてマクベスが神を信ぜずまた無形のものを重んぜざるを觀るべし。

第一に、我れはその近親にして老臣なれば、つや〳〵かゝる業行ふべきにあらず、

第一の信任の存する所以をいふ。「かゝる業」弑逆をいふ。

次には今宵の東道なれば、たとひ逆賊のありとても、戶鎖をかため、我れ之れを防ぐべき筈なり、みづから刃をやは擧ぐべき。あまつさへ彼の人寬仁にして下をあはれみ、國君たるの大任に、さしも過失なく在したれば。

「寬仁にして云々」原文には「さしも柔和に其の職權を行ひたり」とあり。職權とは國王の特權のこと、即ち專橫なる振舞無くていと溫柔に下を御せりといふ意。當時の民が王の常に刑罰をゆるがせにして動もすれば婦人の仁政に失するを歎ける由史に見えたり。原文の clean といふ語は

清淨といふ義なり「過失なき」を汚點などの無きに思ひ寄せたる語なり。

そを亡きものにせん墮獄の罪を、若し企つる者あらば、彼の君が日ごろの淑德、喇叭舌の天使の如く、聲高らかに無罪を辯疏し、

「王が平素の溫厚寬仁の美德が辯護人となりて高らかに王の罪無き由を辯ト王を弑したる者の大逆を詰責すべし」さなり。「喇叭舌」其の聲の大にして天上天下に鳴りわたるをいふ、却ち天使が聲の形容也。

まッた惻憐を呼ぶ聲は今生まれたる嬰兒の、いと甲斐無げに風に駕り。

或はまた世人の惻憐に訴へて王の弑すべからざりしを明にするに便宜なる事情あらばその惻憐を呼ぶに足るべき事情はわざと甲斐なげに打萎れ今生れたる嬰兒のやうに人々の目に見られてこゝかしこに傳はり天下の同感を呼ぶならんといふ意を處々に傳はるといふ處より「風に駕る」さはいふなり。こゝの Pity といふ語もと惻憐、慈悲などいふ義なれど本文の如く解さゞれば義通りがたし。 naked いとかよわげなるをいふ。

さなくば人の目に見えぬ空の飛馬にまたがれる天つすだまのいと猛く、我が怖しき惡行を皆人の目に吹き傳へば、

人の同感を呼ぶに二樣の法あるをいふ。前には嬰兒のかよわきをまれびて傳を呼ぶかと推測し、次には天津すだまの如く猛く烈しく悲愛の情を喚起するかと推測するなり。「人の目に見えぬ空のはゆま」さは「風」のことなりといふ既あり、類例、外にもあり、さりながら文字の通りに見るも義は通るべし。「天つすだま」さは天帝に事ふる精靈、慈悲をつかさどる神使なり。「皆人の目」前に「風に駕る」といひ、後に又人の目に見えぬ風のやうなる馬に乘るといひたれば其の續にて「吹き傳へ」さはいふなり。「目に」といふは下の「涙の雨」を呼起さんための筆法也。

降りもしきらん涙の雨、荒るゝ暴風も和ぐばかりに。

雨ふりしきれば風をづまるといふ俚諺あり、涙の雨のたゞきをあらはす張喩なり。

右を看ても左を觀ても、我が企を刺戟すべき刺輪とては絶えて無し、只乘りに乘る野心のみが急りては的を乘りこし、あらぬ方へ墮ちなんとす。

馬を刺擊するに刺輪といふを用ふ、そをもて馬の左右なる腹部を擊てば馬駈いづるなり、こゝはそれに喩へていふ。原文には「我が企の兩脇を刺戟すべき刺輪なし」さありこゝに「右を看ても左を觀ても」さ義譯す。大意は君若し桀紂の如く無道ならば天下の爲又は道の爲といふ事を刺輪として弑逆の企を敢行すべく、或はまた我れ君に怨あらば修怨の爲又は復讐の爲といふ事を刺戟として我が企を敢行すべきなれど我が場合には一もさる刺戟を得べき傳手なし我が王を殺さんとするは全く自家一身の野心非望より出でたるの外ならざればなり只野心のみ盛んに急りて此の弑逆といふ馬の背にまたがらん〳〵と力むれどこれとてもあまり急らば首尾よく馬君にはまたがり得で或はあらぬかたへ墮落せんも圖られず即ち榮譽光榮を得んとするが我が

本來の望なれど野心のみに急りて王を弑せば徒らに惡名と恥辱とのみを得ることあらんかの憂。

此の一節はむかしより異說紛々たる條なり。大抵直譯にうつしたれど此の末句の如きは如何ともしがたし予が臆註によりて考へ得たるまゝを假にものしつ。さて on the other の後に side といふ語あるべしといふ說はほゞ定まりたるに似たれど尙ほそを書き加ふべしといふ說と此處はいひかけて默したる思入なれば加へざるを可とすといふ說と二つあり。げにやマクベス夫人の上場と同時に急にふりかへり見る思入あるべきなれば譯文にては「墮ちなんとす」だけを肯ひ殘して思入とすべきにや。

Enter Lady MACBETH.

How now? what news?

Lady M. He has almost supped. Why have you left the chamber?

Mach. Hath he asked for me?

Lady M. Know you not he has?

Mach. We will proceed no further in this business:
He hath honoured me of late; and I have bought
Golden opinions from all sorts of people,
Which would be worn now in their newest gross,
Not cast aside so soon.

マクベス夫人登場

さて如何に、樣子はなにと。

マクベス夫人　夜の供御もはやまゐりぬ、我が夫にはなどて御前をば退ん出たまひし。

マクベス　我れを尋ねさせたまひつるか。

マクベス夫人　スリヤ御身には、そを知らせたまはずにか。

案ずるに夫人はマクベスのすべりいでつるを彼の企を行はん準備なるべしと推測せしなるべし。しかるに夫の「我れを尋れさせたまひつるか」といふ面地を見れば全く不覺の体なり王がさば〳〵尋れつることなどは元より承知にて席を避けたりとのみを思ひたりしにといふ思入にて「スリヤ云々」とはいへるなるべし。マクベスその氣色を見てとりて

マクベス　わきも子よ、彼の事は、もはや行はざるべし、

此の一語夫人の耳にはシラセ無しの發砲また心の目にはガンドウ返しを見る思ひあるべし。原文には「我々もはや彼の事を云々」とあれど前後の綴き、かくせざれば情移らず。

近くは我が君榮爵を賜はりたり、我れはた上下の人々より秀き譽をば購ひ得たり、その光澤の尙鮮かなるや、そがまゝ且く着用すべし、いそぎて棄つべきものにあら

「約けき事」原文には「黄金の好評」golden opinions とあり。此の黄金といふ語は俗にいふ立派といふ程の意、類例あり。「勝ち得たり」従来の勲功等にて貴族の名望を買ひ得たりといふ意。「その光輝の言葉」名譽好評を新鋳の貨幣に喩へていふ也。下に「活用すべし」とあるも同上比喩なり。「これらを醫喩」といふ何々の如く若しは何にひとしなど断らずさなからに喩ふる法也、或は比喩を明喩(直喩)に對していふなり。

此の白日を顧ゝ間の夫人の思入を想像すべし

Lady M. Was the hope drunk
Wherein you dressed yourself? hath it slept since,
And wakes it now, to look so green and pale
At what it did so freely? From this time,
Such I account thy love. Art thou afeard
To be the same in thine own act and valour
As thou art in desire? Wouldst thou have that
Which thou esteem'st the ornament of life,
And live a coward in thine own esteem,
Letting 'I dare not' wait upon 'I would,'
Like the poor cat i' the adage?

Mach. Pr'ythee, peace.
I dare do all that may become a man;
Who dares do more, is none.

Lady M. What beast was't then,
That made you break this enterprise to me?
When you durst do it, then you were a man;
And, to be more than what you were, you would
Be so much more the man. Nor time nor place
Did then adhere, and yet you would make both:
They have made themselves, and that their fitness now
Does unmake you. I have given suck, and know
How tender 't is to love the babe that milks me:
I would, while it was smiling in my face,
Have plucked my nipple from his boneless gums,
And dashed the brains out, had I so sworn as you
Have done to this.

マクベス　夫人　マクベス　夫人　マクベス
先刻のは空望か我が夫が紐ひ在しのるは、そこは酔ひこれ

たる偽勇氣にてありつるか。

こゝの原文を直譯すれば「御ン身が(先刻)身を粧ふ料としたりしあの當來の出世の望(hope)はさては醉ひ下れてありつるか」といふ義なり。「身を粧ふ」とは上文にマクベスが名望を美服に比しつるを緣にして「謀叛の精神をかたむる」といふ意味をかく衣服に緣のある言葉にていひ現せるなり譬へば寒暑を防ぐ料にとて裘葛を着する如く大惡事を行はんために未來の立身といふ賴即ち hope をもてその精神をかたむるといふ。

全詩の大意は「わが夫先刻は出世の望をもて謀叛の精神を粧ひかためあくまでも此大望を成就せんの勇氣ありと見えたりしに今更かう突爾に變心せられたるは甚だ以て心得がたしさては先刻身に被りて在せしは眞成の甲衣にてはあらざりしかあの賴もしげなる行末を思ふ勇氣は正氣正銘の望にはあらで只一時亂醉の餘りに成れるえせ勇氣即ち空望なりしか」といふ意、即ち hope の活喩なり。更に再譯すれば「先にはわが夫末の望に接けられて勇氣滿々たりしが今は然らず、さては先の勇氣は醉どれの勇氣なりしか醒むれば忽ち衰ふる勇氣なりしか」といふ意。

その醉ひどれの空望奴が熟睡なし、今にはかに目醒めたるか、

空望を醉ひたる愚人に比し熟睡して醉ひの醒めたる愚人の顏色の痴々しきを空望の破れたる時の心持の痴々しきに喩ふ。

先にはおめず見たりし物を、かくいふ甲斐なう痴々しう、色蒼ざめて打まもるは。

醉ひたる當坐の勢ひよき顏色と醉ひざめのあをゝろき貌とを對照し以て暗に先の眞乎たりしマクベスの勇氣と今のいふ甲斐なき憶病氣とを對照し先には弑逆の企に對して何の恐るゝ色もなかりしに今はそを見ること宿醉の痴人があをざめ貌してあたりを見廻はすが如き風情なるは何事ぞやと罵りはげます言葉也。「打まもるは」の後に「今にはかに目醒めたるか」といふ句を再び添へたる思ひ入れにて讀むべし。

註釋家によりては此の言葉を直ちにマクベスを罵る言葉のやうに釋したるもあれどそは意義を釋するに當たりて止むを得ずふかいひなしたるのみならんこは hope を敵手どりていふなれば婉曲の言葉なること明けし。green といふ語は simple 又は foolish と釋す「痴々しう」の義

けふよりは、みづからを愛しみたまふ御ン心も、またその如しと思ひ待らん。

「我が夫が心の變り易きことかくの如くなれば我れを愛しだまふ情も盡しまたかくの如くなるべしと思はん」となり。

此の一句夫人が女性たる本性を見せていと妙なり第五齣のはゝめに驕げたる夫人が容姿に關する論を卷觀せよ。マクベス夫人が美にして驕なるにあらずば此の言葉ふかすがに力弱く情の移らざるべし。

エヽいふがひなし。かうと心に欲ひながら、そを勇敢なる行爲に打いだすことを憚りたまふか。

この原文に見えたる act and valour は darling not と譯すべし。かゝるかきかたを「ヘンダイアヂ

英文評釋　マクベス

ス」の法といふ即ち詞を二つに分けて同一の意義を表する法なり類例あまたあり。「エヽいふがひなし」原文には無し。

こよなき榮譽と日ごろより尊みたまへる其の物を、得まほしうおぼしながら、われとわが身をおとしめて、卑怯者になりたまはんとや、欲しとは思へど敢ては得せぬ、諺ぐさの猫にひとしく。

「こよなき榮譽云々」原文には「人生の粧飾と云々」とあり、即ち國王の位のこと也。「わが身をおとしめ」王位を希ふは大丈夫の望なりとかれてしものたまひながらみづから甘んじて大丈夫の望を拋擲するは卑怯の振舞ならずや。In thy own esteem &c. とは「御身みづからの眼中の卑怯者となんとにや」といふ意、本文とあはせ見るべし。「諺ぐさの云々」猫は水中の魚を欲すれどその足の濕んことを厭ふ」といふ俚語あり。「欲しとは云々」原文には「敢ては得せぬといふ心を欲しといふ心に侍らせて」とあり、意は本文の如し。

マクベス　アヽコレひそがに、男のなすべき行ひならば我れ敢てもとれを爲さんそが上を敢てせんは人にあらず。

「男のすべき」「大丈夫たる名に恥ぢざる行ひならば」となり。「そが上を云々」「大丈夫の行ふべき道の外にいでたることを行ふは眞の大丈夫にあらず」となり。こヽの「人にあらず」の人は原文にては man とありて前の「男のなすべき」の男と同語なりされど此の man の字は男とも人とも訓ずる

詞なるゆゑ夫人はこを態と人の義に解して下の激語を吐けり。譯文こヽに至りて筆を止むを得で、人と譯しつ。

マクベス夫人　エヽさあらんには、彼奴はいかなる獸なりしぞ、彼の企をば我が夫にすゝめわなみに傳へさせたる彼奴は。

「さからば先刻御身の口を借りてわなみに謀叛の企を傳へしは何者ぞあの聲音こそわれは男魂の聲音なりと思ひしがさては彼れは人間ならぬ野獸などの聲なりしか」の意。break は disclose 又は communicate の義、或は Confide の義にも譯せり。

彼の大望を成し遂げんと、思したつたりし其の折こそ、まことの男で在しつるに。

「彼の企を敢てせんと思ひこみたまひし其折こそなか〳〵に大丈夫らしくありつれ」の意。前の「人(男)にあらず」といへるマクベスの言葉を駁す。

あまつさへ其の折には、いやが上に望をかけ大丈夫にふさはしき行ひせんとおぼしつるに。

原文には「其折の身分よりも立優りたる身分(國王)となりのぼりて一しほ眞の丈夫たるに恥ぢざる身とならばやとおぼしたりき」とあり。to be more とあるは by being more と譯すべし。「その上敢てせんは云々」といへるマクベスの前言を破するなり。more といふ詞を疊めばこそ原文に風調の美の存するなれかく義譯しては何のタヘイもなし。

時も歳も其のをりは双つながら不首尾なりしにそを製りてもと思せしならずや。

adhere は fit と解す「嵌合も接合も其の折は双つながらかを行ふに不適當なりしに御身は何屈する色なく跳ひて嵌合を製作しても本意を遂げんとこそ思ひたまへりしが」の意

今その二つ自然に成り、首尾とゝのへばなか〳〵に、逡巡みたまふは何事ぞや。

「その二つ」とは時と歳との二つ即ち國らずも王のみづから臨幸ありて此の城内に宿りたまふ。「首尾ととゝの」の原文は「時と歳との折にあひたるこゝが御身の決心を打碎けり」とあり。made といひ unmake といふ此の通音に文飾存ずゝれはた解すべからず態と「何事ぞや」といふ一句を結足こす。

われなみ幼子をばはぐくみつれば、我が乳を吸ふ嬰兒のいとはしをばいとよく知れり。

原文には「わなみ乳を與へつるゝこれは」とあれど國文にては下の「乳を吸ふ」の乳と重なる嫌あり。

そもわれ一たび我が背のごとく、からと管ひし上ならば、假令はゝえみてわが頬をうちまもるとも何あらんその嬰兒が含める乳房をまだ生えいでぬ齒肉より引きはなち、捏いつかんで擲げうち、そが腦を微塵となさん。

此の兒殺すべしと誓ひなは我れは敢て其の誓約を實行すべしなり。

Mach. If we should fail?
Lady M. We fail!
But screw your courage to the sticking place,
And we'll not fail. When Duncan is asleep—
Whereto the rather shall his day's hard journey
Soundly invite him—his two chamberlains
Will I with wine and wassail so convince,
That memory, the warder of the brain,
Shall be a fume, and the receipt of reason
A limbeck only; when in swinish sleep
Their drenched natures lie, as in a death,
What cannot you and I perform upon
Th' unguarded Duncun? what not put upon
His spongy officers, who shall bear the guilt
Of our great quell?
Mach. Bring forth men-children only;
For thy undaunted mettle should compose
Nothing but males. Will it not be received,

When we have marked with blood those sleepy two
Of his own chamber, and used their very daggers,
That they have done't?

Lady M. Who dares receive it other,
As we shall make our griefs and clamour roar
Upon his death?

Mach. I am settled, and bend up
Each corporal agent to this terrible feat.
Away, and mock the time with fairest show:
False face must hide what the false heart doth know.

[*Exeunt.*

マクベス　若し事の敗れとならば。

夫人に勵まされてマクベスの心また漸く動く、されども事の成否を危みて個に此の一句を挿む。

マクベス夫人　敗れとならば！

この一句奥譯まち〳〵なり。原文にはマクベスが「若し吾々が失敗するさせば」といひつるに對して其の言葉の中のみをうけて「吾々が失敗する」といはせたりさればこれを「吾々が失敗するやいかでさる恐れあらん」と排斥したる義にも解し得べく「吾々が失敗する、されあらば万事終はちんのみさる相憂はせずもあれ成ると思ひて敢てすべし」とも解し得べく又は「吾々が失敗すとか或はさることもあらんが何ぞそれに關するに及ばん」とも解せらるべし。シッドンス夫人が此の一句を三樣につかひわけしこと人の知る所なり。　予前の三者の中第一を採る即ち「何條さる恐れあらん」と激しくマクベスの懸念を斥けたる言葉と見る也是れ最も此時の夫人の感情にかなへりと信ず。第二の譯の如きは例のイリホカにしてあらぬ付度なり。さてこゝの譯文を「敗れとならば」としたるは原文の we fail の直譯も本意もかく譯してこそ却りてそのまゝに見られると思へばなり。即ちマクベスの言葉を聲の下より繰返したるなりかゝる鸚鵡がへし此の作者の癖なり！の標こゝにてはさやの思入のまゝしと見るべし若し第二の解釋を採らば！を。に改むべく又第三の譯を取らば？に改むるか又は明かにさや又はさかいふ語を書き加へて然るべし。

根強く、勇氣を引きしめたまへ、さあらんには、事敗るゝ氣遣ひ無し。

sticking place　とあるはヰヂといふ者を卷きあぐる根本の處をいふ、茲の比喩は樂器若しは或る機械をヰヂにて卷きあげてそれ〳〵の作用をなさしむる時の趣に思ひ寄せて「勇氣をかたうせよ」といふ意味を表はせり。原文の牙音、井に齒音に寫て夫人が切齒して言ふらん風情のいとよく見えたるを味ふべし

グンカンが熟睡してあらん間に――ひるの旅路の疲にて一しほ昏睡すべきは必定――近侍の二人には、酒をしひ、祝酒すゝめ、頭衞る記憶力は煙と消え、智惠の在所はラ

ソビキの器となられん程までに手だてを以て盛りつぶさん。

the rather は「一層」と訓す。 wassail とは人の健康を祝ぐ爲に飲む賀盃のこと、又賀酒のこと。 convince とは overcome の義、即ち「盛りつぶす」といふ意。「智慧のありか」原文には「理性の入りたるところ」とあり腦髓の一部をいふ。「ランビキ」蒸溜器のこと、こはもと亞刺比亞語のアラムビックより轉訛したるなれば即ち我が俗のいふランビキの器のことなり。

さて彼等が豕のごとく死人の如く醉臥しなん時、衞士あらぬダンカンに、何の業か爲し難かるべき、

Their drenched natures の drenched 本義は「浸透したる」といふこと、此の三詞を義譯して「醉ひつぶれたる三人が」と訓す。 in a death を「死人の如く」と訓す death に a 字を冠らせるために此の義含まれたり。

海綿のごとく醉ひ浸り我れかを知らぬ奴等に、如何なる罪か被せ難からん、弑逆罪を彼奴等に負はせんことは案のうち。

Sponge 海綿は間々泥醉漢の義に用ひらる。 quell とは murder 虐殺の義なり。 what not put upon 此の what と not との間に can といふ詞を加へ not と put との間に 'to といふ詞を入れて讀むべし。 put upon とは「被せる」といふ義、衣服を着するに用ふ、國俗の謂ふ「罪を他人にキセル」といふにおなじ。

マクベス　只男兒をのみ生みいでたまへ、その不敵なる生根にては男の外を得も製りいだしたまふまじ。スヲヤ件の眠れる二人を、帳内に於て血汐にまみらせ、まツた彼等が短劍をば、事の用に供せんには、彼等が所爲と皆人の疑はずして信認ふべきか。

received とは believed の義なり。

マクベス夫人　誰れか異ざまに考へ侍らん、われ〳〵夫婦聲打ちあげ崩御を歎き悲しむべければ。

「誰れか異さま云々」「誰れかさにあらずなど異さまに考へてわれ〳〵を疑ふやうのことをせん」といふ意。

マクベス　わが心決したり、此のおそろしき業せんため、ある限り力ひき絞らん。

bend up 弓などを滿月の如くひきしぼるといふ詞、 Corporal agent 身のかと直譯す筋力といふ意、すべて大力士が強弓をひきしぼりてすばらしき猛獸などを射取る業に思ひ寄せたる喩なり。

いざさらばあなたへ。いとうつくしう見せて周圍の目をあざむきたまへ、

「うつくしう云々」野心のちさもなきやうに見せかけてとなり。「周圍の目」原文は「世をあざむけ」とあり。此の世の字前にも見えたり「周圍の人」といふ義。「うつくしう」通譯ならば、「最も野心なげに」

そこの意味。

しのびの隙を全せしのびの面をかぶり裏はそる可からず。

不誠実の心を false heart といふ時は謀叛人なりしのびの面とは人にも無き秘密をいふ。

(1回終)

ACT II.

SCENE I.—Inverness. Court within Macbeth's Castle.

Enter BANQUO, *and* FLEANCE *with a torch before him.*

Ban. How goes the night, boy?

Fle. The moon is down; I have not heard the clock.

Ban. And she goes down at twelve.

Fle. I take 't, 't is later, sir.

Ban. Hold, take my sword.—There's husbandry in heaven;
Their candles are all out.—Take thee that too.—
A heavy summons lies like lead upon me,
And yet I would not sleep: merciful powers,
Restrain in me the curséd thoughts that nature
Gives way to in repose!—Give me my sword.
Who's there?

第二段

第一場　マクベスが居城の内庭

バンコー後に、フリアンス先に松炬をもちて登場

バンコーその君と共にマクベスが居城に宿りたるが中夜ごろ所ありて眠に就くこと能はざれば其の子フリアンスに案内させて庭内を逍遙す。フリアンス十四五歳の童なりと思ふべし。前妻のつゝきなり。

バンコー　冠者よ、もう何時ごろであらうぞ。

フリアンス　自鳴鐘の音は聞えませぬが、月はもう沈みました。

バンコー　フウ月の落つるはたしか十二時。

フリアンス　イヤ、父上、もう少しあそうでございませう。

原文に I take it とあるは「予が思ふ所にては」の意。take は conceive の義なり。

バンコー　待ちやれ、此の劍を受取ッてたもれ。

フリアンスに帶劍をわたす hold は「待て」といふ意。take は「受取れ」の意。

天上界にも節儉あるかそが燭火は皆消えたり。

「そが」は「火」の「こと」なり。おひゝ夜の更けて星影の稀になれるをいふなり。

ア　ノ　これをも。

短劍なども脱してフリアンスにわたせるまま。帽子若しくは上衣などにやどらふ説もあり。一説にはバンコー妖談が譫言の爲に動かされてそゝろに邪念の魔物たるを禁ずる能はずして故に兜器を悉く脱し去りてかつら劍するなりと。此の説によればバンコーもまたアクベスと同一病に罹れるなり。或は謂ふバンコーが武器を脱せしは惡臣アクベスが居城に宿りたれば武器の必要なしと思ひてなり他意あるにあらじと。

瞼は鈍えめて壓えるゝ如く眠たきこと限なけれど眠に就かんこと好ましからず

惡夢を見んことを恐るゝなり。自制の執意を離れたる邪念がそゝろに夢中に働きてダンカンを試する等の大逆罪を行ふ夢を見するゝことあればなるべし。

われは大慈大悲の神々就眠れば少しかゆるみ胸に浮ぶ忌々しき妄念はらひたまへ〳〵。

バンコーは多少妖談の爲に動かされたるゝこと此の言葉にて明らかなり。此の邊解釋者の推考を要すべき所。

Enter MACBETH, *and a Servant with a torch.*

Macb. A friend.

Ban. What, sir, not yet at rest? The king's a-bed:
He hath been in unusual pleasure, and
Sent forth great largess to your officers.
This diamond he greets your wife withal,
By the name of most kind hostess; and shut up
In measureless content.

Macb. Being unprepared,
Our will became the servant to defect,
Which else should free have wrought.

Ban. All's well.—
I dreamt last nitght of the three weird sisters:
To you they have showed some truth.

Macb. I think not of them.
Yet, when we can entreat an hour to serve,
We would spend it in some words upon that business,
If you would grant the time.

Ban. At your kind'st leisure.

Macb. If you shall cleave to my consent, when 't is,
It shall make honour for you.

Ban. So I lose none

In seeking to augment it, but still keep
My bosom franchised and allegiance clear,
I shall be counselled.

Macb. Good repose, the while!

Ban. Thanks, sir: the like to you.

[*Exeunt* BANQUO *and* FLEANCE.

マクベス後に、一僕先に、松炬をもちて登場。

コリヤわが劔を。

これはフリアンスに對ひていふなり。

それなるは何人なるぞ。

マクベス　怪しうは無いもの。

原文には「友なり」とあり即ち敵にあらず曲者にあらずの義を含めり。

バンコー　ヤ、いまだ御寢ならずか。陛下には已に休ませたまひぬ、ナニガサテ殊の外なる御機嫌にて御城内なる役所々々へは夥多しき賜下したまひつ。且夫人へは此れなる金剛玉を贈らせられ「いと忠實なる女刀自へ」との御ことのり、さて限なき御滿足にて夜殿に入御ありたり。

Shut up 云々のあたり原文に多少の脫字などあるにや解釋思ひ〳〵なれど件の Shut up を Concluded 即ち「其のみこさのりを終結したまひぬ」といふ義に解するが多數なり。或は此意を推して「帳内に入りぬ」と解したるもありこゝには折衷の譯を掲げつ。

マクベス　些も心まうけの候はざりしため、さなくば自由なるべかつし我意もわが意のやうにあらで、足らぬがちに役せられ、何事もふつゝか千万。

バンコー　万事上々の首尾。イヤナニそれがし先刻夢のうちに彼の三個の妖婆を見たりき、

last night こゝにては「先刻」と譯すかゝる例此の作者には屢〻あり。

彼等の貴下に語りしことは現にいくばくか適中せり。

マクベス　彼等のことは、それがしふつに思ひ寄らず、さりながら貴下若し只一時ばかりの便宜をだに彼等に許したまはんには、聊か彼の件につき、語らひ申したき筋のあり、さる機を許したまはゝ。

「我等」といふ語は國君の自ら稱する時に用ふる語にして我が「朕」の字に當たれり。マクベス已に國王に成りのぼりたるやうに思ひてかくいふなりといふ解あれどいかゞにや。

バンコー　いつにてもあれ便宜とおぼされん折にこそ。

貴下が厚意をもて我れと談話せんとおぼされん時にいつにても貴命に應ずべしとの意をうやうやしくいへるなり。形容詞をかくの如く使ふこと此の作者の常なり。

マクベス　若しそれがしが申さん事に貴下同意せらるべくば、その折に到り、それぞ貴下の榮譽となるべし。

此の一節辭意曖昧にして頗る文格をも誤れるに似たれば先輩の解一定せざれど態とおぼろげにいへるならんといふ一説面白けれども本文は態と遁辭のやうにせり。consent を解して或は plan の義とし或は一語にて unanimity with me といふ意を含めりとしたるもあり。又 when tis は之を解して「その事成らん時」としたるが多數なり。

バンコー　そを增さむと求むるとて、そを毀くることなくんば、また我が心の汚ることなく、且は忠勤缺くるなくんば、何事も御言葉にまたがふべし。

「そを云々」前の榮譽を指してそといふなり。榮譽を增長せんと欲するに當たり從來得たる榮譽即ち其臣たる面目をそこなふやうの恐れなくばとなり。

マクベス　さらば安らかに休ませられよ。

バンコー　承うぞんずる、貴下にもまた。

（バンコー並びにフリアンス退場）

以上の對問の意味を解すべからずマクベスが王を弑せんとする心は已に全く決したるに他日此の件につき談合せんといふこと心得顔きに似たり。或は深夜就寢せずして庭内を浸歩する處をバンコーに認められたるゆゑに他日の嫌疑を避けんがため態とよそよそしくかくいへるにや。此のあたりまた評釋家の推考を要する所。

Mach. Go, bid my mistress, when my drink is ready,
She strike upon the bell. Get thee to bed.— [*Exit Servant.*

Is this a dagger which I see before me,
The handle toward my hand? Come, let me clutch thee:—
I have thee not, and yet I see thee still.
Art thou not, fatal vision, sensible
To feeling as to sight? or art thou but
A dagger of the mind, a false creation
Proceeding from the heat-oppressed brain?
I see thee yet, in form as palpable
As this which now I draw.
Thou marshall'st me the way that I was going;
And such an instrument I was to use.
Mine eyes are made the fools o' the other senses,

Or else worth all the rest: I see thee still;
And on thy blade and dudgeon gouts of blood,
Which was not so before.—There's no such thing.
It is the bloody business which informs
Thus to mine eyes.—Now o'er the one half-world
Nature seems dead, and wicked dreams abuse
The curtained sleep: witchcraft celebrates
Pale Hecate's offerings; and withered murder,
Alarumed by his sentinel, the wolf,
Whose howl's his watch, thus with his stealthy pace;
With Tarquin's ravishing strides, towards his design
Moves like a ghost.—Thou sure and firm-set earth,
Hear not my steps, which way they walk, for fear,
The very stones prate of my whereabout,
And take the present horror from the time,
Which now suits with it.—Whiles I threat, he lives:
Words to the heat of deeds too cold breath gives.—
[*A bell rings.*

I go, and it is done: the bell invites me.
Hear it not, Duncan; for it is a knell
That summons thee to heaven or to hell. [*Exit.*

マクベス　疾くゆきて夫人に、飲料の準備整ひなば、呼鐘を鳴らしたまへと白せ。
就寝前に服用する薬酒のだいなるべし。但し此の呼鐘はダンカンを殺すべき便宜を知らすべき合のものなり。後の支度はせ見るべし。
其方も休むがよいぞ。

（従僕退場）

マクベス只一人となり呼鐘の鳴るを待つ。忽然として一個の短剣眼前の虚空に現ー来たる。
ヤ、こは短剣なるか我が眼前にあらはれたるは我が方に柄をさしむけ。
遂に掴めさいふもの一如し。マクベス心神乱れて
いで我れ汝を捉へくれん。
ゥけよりて捉へんぞ。
掌には止まらざれどなほそながらに見らるゝ短剣。あのれ災厄を知らする幻影、
目には見えても手には取られぬ影なるか。只かりそめの夢心が眼に見する剣なる

るか、逆上したる頭腦より生まれいでたる僞物なるか。オヽ尙も見らるゝ劍のかたち、まざ〳〵しう揭焉なり、今拔きはなつ此れにも劣らず。

マクベス短劍をぬきはなちて彼れ此れをくらべ見る。

オヽ我がゆかまく思へるかたへ、汝、我れを導するよ、且その如き利き具をば、げに我れ用ひんとしてありき。

汝幻影、汝は能くわが意を解したり汝の如き銳利なる具を用ひて我れ王を弑せんと企てたりき。

我が眼がいたづらに、他の覺官にあざまるゝ物笑ひとなりたるか、但しは目のみが實を見たるか、

我目の觀る所虛なるか、我觸官等の感ずる所が虛なるか、手には取られねど目には顯然たり。手の證する所か目の證する所かいづれが實にしていづれが虛なる。

尙も見らるゝ短劍あまつさへ汝が刄面と柄元とに前には見ざりし血汐の滴、

此の空中の短劍を舞蓋に實現して見すべきか又は越てをマクベスが神經作用と解して實物を示さず所謂思入のみにて短劍の空中に現ト剩へ血汐の淋漓たるさまを觀者にて想像せさすべきかさいふことにつき先輩の說くさ〳〵あり。これもまた評釋家の見解による事なり。但し短劍を實現するを今の劇場の通例とすときけり。

や〳〵ありてマクベス心やうやうおちゐ夢のさめたるが如き思入

ア、なでふさやうの物あるべき、有りと我が目に見えつるは我が殘忍なる心の所爲。

bloody businessは之れを釋して「殘忍なる purpose 即ち目論見」とすべし。蓋しマクベスは短劍の空中にあらはれたるをひとへに神經の作用なりと思へり。

こゝに至りてマクベス心を靜め更にキッとなりて思入あり我が劇ならばこゝにて合方かはり

今こそ世界の半面は隈もおちず万象死し、長閑なる綺帳の眠も、忌々しき夢に驚く、時得貌なる妖婆等は生白きヒケートに贄をさゝげ祀を執行し、憔せ皺みたる刺客はそれが衞士てふ狼の時分を知らせ吠ゆるなる聲高ければ驚き醒め、彼のタルクインが殘虐の禹歩も斯くや指すかたへ亡魂のごとく忍びよる。

本文に引けるは總て當時の迷信なり草木も眠る丑三ッのすごみを形容せる言葉なり。「タルクインが殘虐の禹歩」とは古羅馬の虐君タルクイニウスがリウクリシアを辱めんとて深夜に閨房へ忍びよりし時の足つきに思ひ寄せるなり。タルクイニウスが貞婦リウクリシアを辱めし事實は盛遠の袈裟師直の鹽谷の妻に於ける物語の如く有名の事實なり。此の作者が壯年の作にこの殘虐の事を本とせしたる物語歌あり。

汝、不動堅固の地よ、我が歩のいづくへ往くか、蹈み鳴らす音をな聞きそ、彼の石だに

も聲立てゝ我が何處かを言ひのゝしり機に適へる小夜中の此の怖ろしさを奪はざるべく。

「彼の石だにも」聖書セント、ヨハネの卷第十九章第四十節に「彼等が默するならば石どもが直ちに呼ばゝん」といふ句ありそれに據りてかくいへるなるべしとケレーはいへり。take は奪ひ去るの義。「此のおそろしき」眞夜中の寂寞たる物すごさをいふ即ち「寂びしさ」といふ意。

我れ言葉をもておびやかすや彼れ何命つゝが無し、行爲の烈火に對しては言葉はいとも冷き息なり。

「彼れ」ダンカンを指す、此の二行押韻 gives は words の動詞なれば give とあるべきなれど格を破りて lives と相ひとからせたり。かゝる破格他にも屢〻あり。

往けば則ち事成就す、ム、我れを誘ふあの鐘の音。（呼鐘鳴る）

此の呼鐘はマクベス夫人が鳴らす所時分はよしといふ知らせなり。

勿聞、そダンカンあの聲をば、そもあの鐘は天國（、さなくば地獄（、汝をしも、送らん最後の鐘の音なるぞや。

knell は葬送の時に用ふる鐘なり。此の二行また押韻此の作者の壯闊壯年の作には押韻の處多けれどハムレット以後の作にはいと稀なり。

SCENE II.—The Same.

Enter Lady MACBETH.

Lady M. That which hath made them drunk hath made me bold;
What hath quenched them hath given me fire.—Hark!—Peace!—
It was the owl that shrieked, the fatal bellman,
Which gives the stern'st good-night.—He is about it.—
The doors are open, and the surfeited grooms
Do mock their charge with snores: I have drugged their possets,
That death and nature do contend about them
Whether they live or die.

（退場）

其二

同前　マクベス夫人登場

此の段或は其二を其一として其一のつゞきとしマクベスの退場と入りかはりて夫人が登場するやうに綴れるもあり蓋し原版の解の相異なるに因る。時刻はいづれにしてもマクベス退場の後程無しと見るべし。

マクベス夫人　彼等をば醉ひ潰らせしその物が、我が心根を強うなし、彼等の心の

焔をば打消し、其の物が、我れには猛火を與へたり。

夫人酒氣を借りて勇氣を助けたるなり。宿直の役人等は酒の爲に心火を打消されたれど我れはその酒といふ物の助にて勇氣奮ひ興りぬとなり。異譯を下したるもあれど本文の義爭ふべからず。

ヤ、あの聲は。

些小の物音にも心動す夫人が衷心の安からざるを見るべし。

今鳴きしはまさしく梟、不祥の夜半を知らせの鳥の音。

梟を「火危ふし」など呼ばひて巡行する夜巡りの男に喩ふ。當時の迷信に梟は災厄を知らすといふ事あり。譯文は大意のみ。

今ごろは事の最中。戸ざしは皆開いてあり、醉ひ潰れたる從者らはおのが宿直の務をば嘲み貌なる高鼾、生死もわかず醉ひ臥すやう、豫て牛乳酒を調合しつれば。

「死と生とが云々」原文の nature といふ語こゝにてはシュミットの釋にしたがひて vitality の義とする方最も穩なりとす。「牛乳酒」酒と牛乳とを煮て強き藥劑を加味したる飲料、就寢前に服するものなり。こゝの意味はいと強き藥劑を加へ置きたれば彼等は生死いづれともわかぬほどに熟醉してあるべしとなり。that は so that の義。

Mach. [*Within.*] Who's there?—what, ho!

Lady M. Alack! I am afraid they have awaked
And 't is not done:—the attempt and not the deed
Confounds us.—Hark!—I laid their daggers ready;
He could not miss 'em. Had he not resembled
My father as he slept, I had done 't.—My husband!

マクベス　(與にて)ヤそこなるは何者なるぞ。——ヤ〳〵。

案ずるにマクベスは之れより先に老王を弑せんとて奥の間に赴きたりしが斷然手を下すべき勇氣乏しく廊下に踟躕せる際夫人が獨語の片端を漏れ聞き覗ふ人ありと思ひ我れ知らず樓頭に走り戻りて下の方を見おろしそゝろに聲をたてたるなるべし。

マクベス夫人　ヤ、さては彼等が目を醒まして事敗れしにはあらざるか。

alack といふ語恐らくは ah lack のつゞまりたるならん嗚呼不幸若くは嗚呼失敗といふ意味を含める悲歎の語なり南無三寶の意なり。

手を下しながら成らずんば、我々夫婦が一期の破滅。

Confounds は ruins の義、本文の譯はクラレンドン版の釋に據る。

ヤ、あの音は。

心顫に指動して些小の物音をも雷の如くに聞くなるべし。

短劍は好うして置きたり、よも見遺しは爲たまふまじ。

侍從等が佩きたりし短劍なはぎ取りて事の用に供するに都合よきやうになし置きぬ我が夫が短劍のある處を求め感ふやうの事はなかるべしとなり。

さるにてもあの眠貌が、亡きかぞのうしに似ざりしならば、我が手にかけて爲おほせつらんに。

夫の敢爲の勇に乏しきを危ぶむあまり先刻短劍の準備などなし、折にダンカン王を弑し了らざりしこと無念なりきと歎ずるなり。俗傳の蘇史によれば夫人の父とダンカン王とは血筋の相近き中なれば容貌相似たる所ありしなるべし。夫人王の眠貌のおのが亡き父の貌に似たるを見て流石に手を下しかねきといふ所女性の性質見えていと妙なり。夫人が人間の女性にして寛界の女性にあらざることもこれにより著けしセームソン夫人がその Characteristics of Women に於て評したるなど參照すべし。

Enter MACBETH.

Mach. I have done the deed.—Didst thou not hear a noise?

Lady M. I heard the owl scream and the crickets cry

Did not you speak?

Mach. When?

Lady M. Now.

Mach. As I descended?

Lady M. Ay.

マクベス登場

ヤア我が夫か。

マクベス　事は爲し果てたり。御身は物音を聞かざりしや。

マクベス夫人　梟の叫ぶ聲と、きり〳〵すの聲との外は。

夫に對ひてはいと〳〵おちつきたるいひぶり也さきに些細の物音に動ずたるに似ず。前に蟋蟀のことは見えざれども「ヤヽあの物音は」といひてちば〳〵耳を傾けたる際に聞けるなるべし。當時の迷信によれば蟋蟀もまだ人の死を報告するものなり。

何事かのたまはざりしや。

此の一語以下評釋家の間に異論あり。ハンタル、ブアルヰス等は此の一問を夫人の白とせずしてマクベスの白とせり而して其の次なる when と now を並びに疑問詞の語にして夫人に言はしめたり。いづれの解釋が最も穩當なるべきか容易くは判ずがたし。尚下の註を讀みて双方の當否を味ふべし。

マクベス　何時

マクベス夫人　今がた。

ハンタル等の解によればマクベスが「何事かのたまはざりしや」と問ひつるに答へて「何時？今がた？」と夫人が反問せるやうにしたり。

マクベス　降り來し時に？

異釋にもたがへば此の疑問詞の一語は斷定的となりてマクベスが夫人に答へたる語となる也。

マクベス夫人　いかにも。

異釋にても此の語は夫人の答なり。案するにハンダル等の解によれば此の「いかにも」といふ語本文に於けるよりも遙に重し即ち「いかにも獨語してありたりき」といふ程の意となる。本文の解の如くば此の問答は未だ終結せざるものゝ如し何となれば「のたまはざりしや」と夫人が問ひつるにマクベスは「何時」と反問しやがてまた「降り來し時にか」と反問し遂に「物いひき」さも「いはざりき」とも決答せずして直ちに餘事に移ればなり。且や夫人が問ひし如くにマクベス果たして何事かいひきとすればそは前の「そこなるは何者なるぞ」といふ白を指さざるを得ざれどこは樓上にて發せし言葉にして樓を下れる時の言葉ならねことはその未だダンカンを殺さゞる前に發したるを見ても明かなり。予は一個人の見解としてむしろフアルチス等の說に從ひ句讀を改めんと欲するものなり。

Mach.　Hark!
Who lies i' the second chamber?
Lady M.　Donalbain.
Mach.　This is a sorry sight.
Lady M. A foolish thought to say a sorry sight.
Mach. There's one did laugh in's sleep, and one cried, 'Murder!'
That they did wake each other: I stood and heard them;
But they did say their prayers, and addressed them
Again to sleep.
Lady M.　There are two lodged together.
Mach. One cried, 'God bless us!' and, 'Amen,' the other,
As they had seen me with these hangman's hands.
Listening their fear, I could not say 'Amen,'
When they did say 'God bless us.'
Lady M.　Consider it not so deeply.

マクベス　ヤ、あの音は。——二の間には誰が臥せるぞ。

マクベス夫人　ドナルベインが。

マクベス　あなうたて、此の光景は。

（おのが手を打ながめて）

Sorry かゝるところにては「うたて」と訓むべし。

マクベス夫人　うたてとや、嗚呼なることを。

原文には「痛ましき」いはんは嗚呼なる妄想」とあり。

マクベス　眠りながら、一人がきやら〳〵と打笑ひ、また一人が『あなや人殺し』と呼ばひしかば、彼等は互ひに驚き醒めたり、我れ立ッたるまゝ耳そばだてき、おかるに彼等は神に祈願し、またも眠らんとぞ試みたる。

突如として弑逆の情況を語りいだし來たる。マクベスが心中心の鬼の心を責むる苦痛の外殆ど物無きが如きを見るべし。

マクベス夫人　ハテかしこには二人の男が一處に臥してあり。

此の言葉の本意明かならずデイトンが引けるデリアスの說によれば lodge 即ち臥すといふ語に謎あり「熟醉してヘタバリ居る」といふ義、即ち死人も同樣なる二人の從者がヘタバリ居れることは余れも知れり今更のやうに事々しう其の二人の事をのたまふは笑止なりとやうにマクベスを嘲りたる言葉なりと云々。

デイトンは此の釋を排けてこはむしろ夫人の獨語同樣のものと見るが優るべし即ち夫が戰々兢々と心おくれて事を完成し得ざるが如き樣子を見てみづから代りて殘務を成就せんと欲しタンガンの廢屋の模樣などを眺め考へゐる姉ならんといへり。予案するにこゝは只一通の嘲弄の言と見るべきかデリアスの「熟醉して（ヘタバリ居る」と解したるはやゝ穿鑿に過ぎたるに似たり只マクベスが二人の物いひし事をぎやう〳〵しく語るを聞きて「されば、かしこには二人の從者が玉と共に打臥してある筈なり人間なれば物をもいはんず呼ばひもせん何の不思議かあるとさやうに例の卑刀直入的嘲弄をものせるなりと見るかた程がなるに似たり。獨語といふ解は到底信ずがたし但し lodge に「ヘタバリ臥す」といふ訓はあり。

マクベス　その一人が『喃神よ助けたま〳〵』と打叫び、さてひとりが『げに』と叫びぬ、これ此の我が獄卒の如き手を見し時に。

「げに」原文には amen とあり amen とは so be it の義にして「しかあれかし」とも「げに〳〵」とも訓ずべし。本文の場合は「げに〳〵我れもしか神に祈るなり」といふ程の義なり。「獄卒の如き云々」獄卒の如く血にまみれたる手といふこと。

彼等のおびゆるを聞くものから、『助けたま〳〵』といひつる折、只『實に』とだに一言を我れは言ふこと能はざりき。

「おびゆるを云々」おびえて叫ぶ聲を聞きながらといふ義。

マクベス夫人　さな思ひ入りたまひそよ。

さう深く思ひ入りたまふなとなり夫人もすこしく氣味わるくなりし介。

Mach, But wherefore could not I pronounce 'Amen?'
I had most need of blessing, and 'Amen'
Stuck in my throat.

Lady M. These deeds must not be thought,
After these ways: so, it will make us mad.

Mach. Methought I heard a voice cry, 'Sleep no more!
Macbeth does murder sleep,'—the innocent sleep:
Sleep, that knits up the ravelled sleave of care,
The death of each day's life, sore labour's bath,
Balm of hurt minds, great nature's second course,
Chief nourisher in life's feast;—

マクベス　さるにても、など『げに』とだにいふことの叶はざりし。いとゞしく其の折は神の冥助を欲しつるに、『げに』の一句の喉にからみて。

苦しき時の神經み、君を弑しながら神の冥助を求む、此の不條理と不都合との中に人情の微はこもりたり。心の鬼に責められて精神惱亂せるマクベスは其の言ふ所行ふ所ほと〳〵小兒に類す叱咤三軍の驍將万夫不當のマーズ寮神今何處にかある。案ずるにおほよそ私情酷しく激昂して我れかを忘るゝに至る際には人大かたは小兒にひとし私欲の爲に大に怒れる、私欲の爲に大に悲める、私欲の爲に大に喜べる等其の言行に兒の態あり沙羅件の秘密を攝破し得て神に入る。

マクベス夫人　かゝる事は、さやうに思ひ入りたまふ可からず、さては心も狂ひぬべし。

例の嘲弄の口吻跡を失してやうく〳〵氣味わるげに語氣味ふべし。So といふ語こゝにては if so と解すべし。

マクベス　何處とも無く聲あッて『安眠の根は絶えぬ、マクベス眠を殺せるぞや』と呼ばふが如く聞えたり——無邪清淨の眠をば、紊れ心の綿糸を編み整ふる眠をば日々の憂身の涅槃をば、勞苦やすむる浴をば、傷める心の藥膏をば、自然が進むる二の珍膳命育つる滋養物をば——

夫人がなだむるなれば聞かざるものゝ如く又もや突爾として前の物語を繼ぎ前におのが神經作用にて聞きし所の事柄を語る。譯文拙劣その妙の万分一を傳ふること能はず而してこれを評註すべき言葉をも知らず此のあたりは宜しく原文に就いて味ふべし。

「無邪清淨」以下なも何處ともなく呼ばひし聲の語りたるやうに「印の中に、含ませて編みたる版本もあれど無邪清淨以下の言葉はマクベスが下したる安眠の評釋たること論に及ばず。

「紊れ心の綿糸」原文には「心づかひの紊れたる綿糸」とあり國文ならば紊れ心の麻糸などあるべき所なり。「日々の憂身の涅槃」とは眠れば日々の苦しき生涯を忘れ果つる効能あるをいふ。此處に列擧せるはいづれも眠といふものゝ効用を稱するなり。「自然が進むる二の珍膳」といふも安眠といふものは自然即ち造化翁が人間に與へたる最美の珍味にしてこれによりて人間は日々の苦を忘れ憂を遣るといふ意也。安眠の効能を本文の如くに稱賛吟詠したる例他の詩人にもあまたあり。「二の珍膳」とはほゞ我が國に謂ふ二の膳といふことに通ひて調理の手際と食料の品質とを選りに選りたる珍膳をいふ。げにやひとり現在界のみをもて人間常住の處とせば安

眠にまされる安樂は無るべし富み且貴きも上見れば限なき樂欲の苦あり有形の欲は滿足するも無形の欲は妄想の無限なる間到底滿足する時ある可からず。されば只現實界物質界のみをもて人間の全世界と思へる輩が安眠をもて無上の安樂界と見做せること自然の沙汰なり彼等にとりては安眠に次げる安樂界はひとり死といふ境界あるのみ。情死者の死を急げるなど一つは此の理によることなるべし。

神を信ぜず後世あるを信ぜざるマクベスが良心の叱咤詰責に苦められて安眠の根の絶えたるを意識し悲しげにその亡滅を弔ふ。此の實際的物質的人物にして此の言ある趣味一しほ深しと評すべし。

Lady M. What do you mean?
Macb. Still it cried, 'Sleep no more!' to all the house:
'Glamis hath murdered sleep, and therefore Cawdor
Shall sleep no more, Macbeth shall sleep no more!'
Lady M. Who was it that thus cried? Why, worthy thane,
You do unbend your noble strength, to think
So brainsickly of things. Go, get some water,
And wash this filthy witness from your hand.—
Why did you bring these daggers from the place?
They must lie there: go, carry them, and smear
The sleepy grooms with blood.

マクベス夫人　サウコレ何ごとをのたまふぞや。

慄然また呆然たる介。若し譯を異にすれば「ナウコレ」の一句を除くべし。

マクベス　尚もその聲の呼ばふらく『もはや眠の根は絶えぬ』と家うちに洽く鳴り轟き『グラミス眠を殺しつればカウドルもはや眠らざるべし、マクベスもはや眠らざるべし。』

グラミスといひカウドルといひまたマクベスといへる榮するに如何なる資格にてももはや安心を得る道無きに至りたりといふ心を強めていへるなり別に深意あるにはあらず。いづれも心の鬼の聲なり。

マクベス夫人　誰そそのやうに呼ばひつるは。

マクベスの盲いよ〳〵いでゝいよ〳〵奇怪なりそのはじめは夫人もおぼえず慄然として自失せんとするが如き躰ありしが此の時やう〳〵我れに返りて例の嘲弄の口吻を復し來たる。「誰そ其のやうに云々」只一句マクベスが長ゼリフを壓倒して尚餘力あり。おほよそ美しさ怖しさなどを語るには多く盲はざる所に餘韻多く存するものなりマクベスの述懐そのはじめはいと〳〵物すごく聞こゆれどやう〳〵同じ事を繰り返すに及びて痴人の夢物語に類したり。夫人が當初の慄然たりし感を排し去りて本來のマクベス夫人に返り其の優柔を罵倒し來たれる思

ふに當然の沙汰なるべし。

ハテ何事ぞそのやうに、物狂はしい物案じ、あたら智力を弛べたまへり。

「あたら智力を云々」原文には「尊き力を弛べたまへり」とあり。こゝに謂ふ力とは智の力の義、thinkの前にsoasといふ接辭ある心にて讀むべし。

さる嗚呼なる物案ドをするは神經病者の振舞なり御身は性來の智力の消耗したるにやほとほと狂人に類する物案ドに沈みたまへりとなり。例の夫を勵ます言葉なり。

いざ往きて水をもとめ、その汚はしい手を雪ぎ忌々しき證據を除きたまへ。

原文には「その汚はしき證據をば御身の手より洗ひ去りたまへ」とあり文章の都合によりて本文の如く轉換す。「忌々しき證據」とはその手につきたる犯罪の證といふ義即ち血汐のことなり。

エヽなどて此れらの劒をば此處へは持來たまひつるぞ。

弑逆の場處に殘し置くべかりし短劒をばマクベスがそのまゝに持ち來たりつるを罵る。

あしこに置かずては適はぬものを。

蹙みがけていふ夫人が口つき見るやうなり。

いざや疾く持往きて、眠りとけたる從者らに、血汐をば塗りて來ませ。

Mach. I am afraid to think what I have done;
Look on't again I dare not.

Lady M. Infirm of purpose!
Give me the daggers. The sleeping and the dead
Are but as pictures; 't is the eye of childhood
That fears a painted devil. If he do bleed
I'll gild the faces of the grooms withal,
For it must seem their guilt.—

[*Exit.—Knocking within.*

マクベス 夫人 いや〳〵もはや往くまじきぞ、爲しゝ事を思ふだにも我が心安からず、いかでまたそを見るべき。

叱咤三軍の饒將軍、万夫不當のマーズ尊神今は亦何處にかある。

マクベス夫人 エヽいふがひなき心たましひ。

決心の堅固ならざるを責むる言葉。

エヽその劒をわたしたまへ、睡れると死にたるとは只かりそめの畫像も同然、畫ける夜叉を恐るゝはいふ甲斐もなき小兒のふるまひ。

原文には「畫ける夜叉を怖しと見るは小兒の目なり」とあり。

いで彼れが血汐流れたらば、そを眠りたる從者らの面に罪もろともに塗りつけて

ん。

「罪もろとも」以下義譯也。此のところ原文に口合あるが故に直譯しがたし。原文のまゝを譯すれば「若し彼れ血しらば我れそをもて侍從等の面に鍍金せんこの事かれらが犯罪と見えざればかなはぬゆゑに」といふ義にてギルドとギルトと相ひゞきて一種の口合となるなり。此の口合といふものは國文のカケ言葉と同じ質のものなれど國語の性質同じからねば英語にては到底我が國文にての如く自由に優美を使用せらるべきものにあらず。此の作者も壯年の作には好みて口合語呂のたぐひを用ひたれど晩年に近づくにまたがひ次第に之れを減少し遂には道戯形の白にての外は殆ど全く用ひざるに至りぬ。本篇にては下の門衛の白を除きてはこゝの一句の外語呂口合絶無なりと覺ゆ。英にては口合は最劣の頓智といひて痛く卑み殊に崇嚴な事とする悲劇の中に口合語呂などを插むことはゆゝしき禁物の如くしたればマクベス夫人が此白なも或は折に適はずとて非難せるもあれど夫人嘲りて勵ます意を含みたれば折に適はずとは不當の評なりましてや此の悽絶慘絶の最中に圖らずも此の皮肉なる嘲弄と浮薄なる滑稽の聲とをきくはさながら物すごき古戰場又は眞夜中の墓場などにて思ひがけなく只一聲の笑ひ聲をきゝたるに似てなか〳〵に物すごさを增すべきなや。

原文に「鍍金せん」とあるは血の色の深紅なるが金色に近くればなり紅の金色を帶べるを思はば此の比喩の無理ならぬを味ふに足るべし。紅を金色と見做せるは類例あまたあり。

（退場、奥にて端戸を叩く音）

Macb. Whence is that knocking?—How is't with me, when every noise appals me?
What hands are here? ha! they pluck out mine eyes.
Will all great Neptune's ocean wash this blood
Clean from my hand? No, this my hand will rather
The multitudinous seas incarnardine,
Making the green one red.

マクベス　ヤ、何處よりか、端戸に音なふあの物音。そも我れは何如にせし、聞く音毎に驚かるゝは。エヽ何たる手ぞや此の手は。我が眼を引きも抜かん此の光景。

鮮血にまみれたる此の手を打みれば我が双の眼抜け去らんとするなり。

大海プチユーンの海洋の、潮は傾け盡すとも、よも雪がじな、此の血汐は。

「プチユーン」とは海の神の名、我が海龍王にあたる。

否なか〳〵に我が此の手が、億萬波濤の海原の、その綠をも一色の韓紅に染めなすべし。

multitudinous の本義は數限りなきといふ程の意なりこゝにては波の數の限り知られ

おとしふ scais と複數にしたれども海を無數からくるにはあらず。

Re-enter Lady MACBETH.

Lady M. My hands are of your colour: but I shame
To wear a heart so white. [*Knock.*] I hear a knocking
At the south entry;—retire we to our chamber.
A little water clears us of this deed:
How easy is it then!—Your constancy
Hath left you unattended.—[*Knock*] Hark, more knocking.
Get on your night-gown, lest occasion call us,
And show us to be watchers.—Be not lost
So poorly in your thoughts.

Mach. To know my deed, 't were best not know myself. [*Knock*
Wake Duncan with thy knocking:—I would thou couldst! [*Exeunt.*

マクベス夫人登場

マクベス夫人　喃、わなみの手の色も同じき色になッたれども我が夫の如き白けたる心の臟を有たんは耻かし。

肝の臟又は心の臟の白けたるを怯懦の證に引くこと當時の例なり。こゝは夫人が侍從等に血を塗りてに歸り來たりての白なり。

（奥にて端戸を叩く音す）

オヽあれこそは南口に音訪ふ物音。いざや臥房に退り侍らん。ちとばかりの水をもて惡事を雪かば身は清淨、いかに、いと容易き業ならずや。

「惡事」は deed の訓、此の語を惡しき意味に使ふことは此のころのならひなり。南口に音訪へるはマクダフとレノックスとなり已に夜明けたれば王の迎ひに來たれるなり。此の段デ、クインシイの有名なる評論のあるところ、皆々しければ今引かず。

アハレ堅固なる決心は我夫を棄てゝ去りぬと見えたり。

此段ロルフの解による。constancy こゝにては resolution 又は firmness の義なり。マクベスが茫然自失したる氣色を評したる夫人の語。

（奥にて端戸を叩く音）

アレ〳〵又もや音訪ふ物音。我夫よ闇衣を纏ひたまへ、ふと呼び出されん其の折に、夜居したりきと見られぬために。

「闇衣」今の dressing gown といふもの〳〵こと、俗にいふ寢衣の事にはあらず。寢のまゝの正服を着し居らば微夜したりきと知らるべければ遽に闇より起きいづる時に上に被ふる「闇衣」を着用してあるべしとなり。

ヨレそのやうに我れを忘れ力無げに遥かしら思ひ沈みて在するなよ。

poorly ミは力無げに又はかすかならしいなミの意なり。

マクベス　爲し人業を忘れねばこそ我れを忘るゝに優す術なし。

此の段異論のあるところなり、或は脱文あるにや、クラレンドン版の解によれば是マクベスが「我れを忘るゝなミいふ夫人の非難に答へて「我れを忘るなミは我が爲しゝ業を記憶せよ」との意、我が爲しゝ罪業を忘れずば進んで善後の策を講ぜざるべからざるが然せんには殆ミ無自覚の有機ミならざれば叶ひがたし即ち我れを忘るゝ術ミして最上の方法なるべし」ミいふなり、ミて To know my deed? 'Twere best not know myself 如ミ解きて認めミ多くたり。他の解釈も大同小異なり、予は二一に意を酌みて本文の如く解し、即ち「爲しゝ業を忘れねば」ハそ我れを忘れんミハ思ふ心の兎に角貪らるゝ今の身は我れを忘るゝに優す術なし」ミなり。

（奥にて門戸を叩く音）

起こせ打叩きてダンカンをばアハン波が力を以て呼び起こさん由もがな。

（同退場）

Enter a Porter.

[*Knocking within.*

Porter. Here's a knocking, indeed! If a man were porter of hell-gate, he should have old turning the key:—[*Knocking.*] Knock, knock, knock. 'Who's there, i' the name of Beelzebub?'—'Here's a farmer, that hanged himself on the expectation of plenty:' 'Come in, farmer: have napkins enough about you, here you'll sweat for 't.' [*Knocking.*] Knock, knock. 'Who's there, i' the other devil's name?'—'Faith, here's an equivocator, that could swear in both the scales against either scale; who committed treason enough for God's sake, yet could not equivocate to heaven:' 'O! come in, equivocator.' [*Knocking.*] Knock, knock, knock. 'Who's there?'—'Faith, here's an English tailor come hither for stealing out of a French hose:' 'Come in, tailor; here you may roast your goose.' [*Knocking.*] Knock, knock. Never at quiet! 'What are you?'—But this place is too cold for hell. I'll devil-porter it no further. I had thought to have let in some of all professions, that go the primrose way to the everlasting bonfire. [*Knocking.*] Anon, anon! I pray you remember the porter. [*Opens the gate.*

（奥にて門戸を叩く音）門番登場

此の段門番の白は悉く卑俗なる洒落、語呂合より成れるもの多く殆ミ解すべからず。現行のシルレルが譯したるマクベスには此の段を改めて優美閑雅なる一節ミなせり。蓋し此の挿段なる戯劇の中に、一種卑俗の一節あるを相叶はずミ思惟したればなるべし。〃〃ミに論きては例の異論むづかしく奥は門番に關する此の一

節は後人の插入にしてシエークスピアの筆にあらずと論じたるもあり五月蠅ければ、今は總てこれを擧げず。

解釋を主とする本文を意譯にせんも如何なれば滑稽の意を失ふこと不本意なれど、本文は成るべく原淺をそのまゝに譯す迴りくどき重々しき飜譯と見ゆるは譯文の所爲と知るべし。

門衛　ヤレほんしきに叩きやァがるわえ。地獄の門番であらうものなら、無や此節は門鍵の忙しいことであらう。

「ほんしき」indeed の直譯、滅法に又はおそろしくなどの意。「地獄の門番」云々、これは嘲世刺俗の語なり、當今は惡事を行ふもの多きゆゑ天堂に昇るものは稀く地獄に隨つるものは多かるべし此の故に地獄の門番となりてあらば定めし門の開閉に多忙ならんとなり。我が身分に引きくらべて地獄の門番を想ひやる、總て酒に醉ひたる介と知るべし。

（奥にて叩く音）　ヤ叩いたり〳〵シツカリと叩いたり。

マクダフとレノックスとが南口の端戸を頻に叩けど醉ひ下れたる門衛は容易に之れに應ぜんともせず當をまく体。

コウ其處（來やァがつたは何奴だ、ビエルゼボッブさまのお尋ねだぞ。

これマクダフ等に言ふにはあらずおのが想像の亡者に對ひて言ふなり即ち地獄の門番に成りたる了簡にて地獄に墜ち來たれる亡者に問ふ思入。「ビエルゼバッブ」とは昔しフヒリスチン人が崇拜せし惡魔の名。

ハテナ農夫だな、豐年らしいのに力を落しブランコ往生をした奴か、オ、よい時に來さしッた、手拭の準備はよしか、今に油汗がズント出るぞよ。

「豐年らしいのに」云々、これは當時の事實に原づけるならんといふ説あり穀物の價あがるべきを見込みて夥多しき買占をなし置ける農夫が其年の豐年なるべきを見て落膽し自殺せし例ありとか。「油汗」云々所謂鼎熱地獄の責呵にあふ準備せよとの意。

（奥にて叩く音）　叩いたり〳〵。そこ（來たは誰だ、外の夜叉さまのお尋ねだぞ。

「外の夜叉さま」ビエルゼボッブの外の夜叉といふ意。Hales の説によれば Belial といふ惡魔を指していへるならんとのことなれど如何にや、こゝは只急に外の夜叉の名を思ひいだしかれての出鱈目なるべし。

いかさま汝は兩天秤の二枚舌、眞赤な空誓文した奴だな、神さまのお爲でかしさんな悪事、その重寶な二枚舌も天へゆく用にはたゝなんだの。サァはいッたり〳〵。

「二枚舌」云々、此段ジエッシュイト教徒に對しての諷刺なるべしといふ解を正確とす、ジエッシュイトは元耶蘇協會々員の淺にして會は一千五百四十一年ローマの創立に

係る此派は正教會よりは邪宗を以て目せられたりき或は二枚舌主義の開祖とも稱せらる兩意語を用ひて首鼠兩端の曖昧なる誓約などを主とするを刺れるなり。「天へ往く用」云々、人間をあざむきし此の教徒の兩意語が遂に天帝をあざむき得ずして墮獄せるを刺れるなるべし。多少當時の事實に因緣したる場當りの白と見るべし。

(奥にて叩く音)叩いたり〳〵、ズント叩いたり。そこへ來たは誰れだ。ヨウ英吉利の裁縫師だな、佛蘭西仕立の細袴から寸を盗み、それで遂々墮ちて來たな。大將はいッたり〳〵、爰は火伸をあぶるには恰好場所だ。

裁縫師が仕立物の寸を盗みて自家の利得とする惡弊は諷刺家の屢〻材料とする所。佛蘭西の袴にも仕立かた色々あるべしといへども爰はいと細き袴をいふならんいと細きゆゑにその中の切れを盗むこと最も難かるべき筈なり。然るにそれをさへ竊み得たる竊盗巧者の裁縫師なればこそ地獄に墮ちたれといふ意か。「爰は火伸」云々、焦熱地獄にて汝が火伸をあぶるべしといふ滑稽。

(奥にて叩く音)叩いたり〳〵、トント忠づかにして居やァがらぬ。コウ手前は何だ。

これも前と同じく假空の墮獄者に問ひかけたる詞。

まかしまてよ、地獄にしてはあんまり寒いな、地獄の門番はもう腐すべい。

曉の風の寒さに酒の醉少し醒めかゝりたる分。

恒例の花道傳ひ、消えずの焚火へやッてくる種々雜多の商人職人幾らか通してやらざァなるまい、さう思ッてゐたッけが。

「花道傳ひ」云々、娑婆の生活を謂ふ。「消えずの焚火」地獄の焚火といふ火彈の焚火の一時なるに比べて地獄の火を不滅といふなり。Primrose とは蓮華花のこと現在の樂欲界を蓮華花路といひたる例『ハムレット』に見えたり。

(奥にて叩く音)ハイ〳〵只今〳〵、どうぞ門番を忘れさッしやるなよ。

お祝儀を下さいといふ意。

(門の戸をひらく)

Enter MACDUFF *and* LENNOX.

Macd. Was it so late, friend, ere you went to bed,
That you do lie so late?

Port. Faith, sir, we were carousing till the second cock;
And drink, sir, is a great provoker of three things.

Macd. What three things does drink especially provoke?

Port. Marry, sir, nose-painting, sleep, and urine. Lechery, sir, it provokes, and unprovokes; it provokes the desire, but it takes away the performance. Therefore, much drink may be said to be an equivocator with lechery: it makes him, and it

mars him; it sets him on, and it takes him off; it persuades him, and disheartens him; makes him stand to, and not stand to: in conclusion, equivocates him in a sleep, and, giving him the lie, leaves him.

Macd. I believe, drink gave thee the lie last night.

Port. That it did, sir, i' the very throat o' me: but I requited him for his lie; and, I think, being too strong for him, though he took up my legs sometime, yet I made a shift to cast him.

Macd. Is thy master stirring?

マクダフ　ノックス登場

マクダフ　爺よ、かやうに遅くまで寢てゐるは、餘程夜深てから寢たと見ゆるな。

原文には「友よ」とあり便宜のために「爺よ」と譯す。此の段あまりみだりがはしきことを多ければ譯なも譯をも略したり讀者これを諒せよ。

門衛　へイさやうでございます、大盃で二番鳥が鳴きますまで下さりましてございます。

マクダフ　ハ、アさてはその酒めが、昨夜其方を平伏したのぢやな。

此れより以下門番の答までは駄洒落なり例の譯すべからざるものなれど語義の解譯までに譯し置くべし。原文に gave thee the lie とあるは「虚言者めさいうたな」の義にして「武士が喧嘩を吹きかける時の詞をいうたな」といふ意味、簡略にいへば「其方に戰を挑みしよな」といふ義、全文の原意は「扨は昨夜其方は酒と組打いたしたな」となり。本文に「平伏した」を用ひしは前の白の動詞なる lie（横臥）に應ずべき口合なるを知らせんとての悪戯なり「組打いたしたな」といふかた原義に近し。

門衛　でございますわい、ヘイ〳〵、さかもわたくしの此の喉ンとこを突きやァがりましたが、まんまと返報を致しました、何でも彼奴め到底敵はぬと思ひましたか、時々脚をすくはうといたしましたを、（イやつとこさ投出してしまひました。

此の段つまらぬ駄洒落なり。「喉ンとこ」云々は前の gave thee the lie に應ずべき洒落なり直譯をもていはんに「喉に於て虚言を人に與ふる」といふことは最も甚しき侮辱を加ふるといふ意なり門衛は此の悪味と酒の喉に入りし事實とを打混ぜて口合をいへるなり。「時々脚を」云々は酒のために足元のよろめきしをいふ。「投出して」云々とは「嘔吐し盡くしぬ」といふ義、版によりては此の駄洒落だけは悉皆除きたるものあり。これらは實にあらずもがなの白なり向ふ正面の一時の笑を買はんために挿入せしものなるべし。

マクダフ　シテ御城主にはもはや起出たまひつるか。

Enter MACBETH.

Our knocking has awaked him; here he comes.

Len. Good-morrow, noble sir.

Macb. Good-morrow, both.

Macd. Is the King stirring, worthy thane?

Macb. Not yet.

Macd. He did command me to call timely on him;
I have almost slipped the hour.

Macb. I'll bring you to him.

Macd. I know this is a joyful trouble to you;
But yet 't is one.

Macb. The labour we delight in physics pain.
This is the door.

Macd. I'll make so bold to call,
For 't is my limited service. [*Exit.*

マクベス登場

レノックス　オヽあれ〳〵の音なひに呼び起こされ彼の人此處へ來ました。

マクベス　あはやうたがはる。

多き朝た君の爲に祈る夢き君よりふ淺。

マクベス　あはやうたがはる。

マクベス　ヨテ我が君にはいはやあ目ざめにて候ふや。

「侯爵」我君には起き出でさせたまひつるやうなり。

マクベス　陛下にはまだ。

マクダフ　陛下には時刻の後れ如のち伺候せよとの勅諚なりしにはと〳〵其の期を外せしそれがし。

マクベス　いざ御寢所へ御案内。

マクダフ　それぞ即ち和君にとりては悦ばしき勞苦ならんが勞苦たるには相違無し。

御案内御苦勞にぞんじ申す。

マクベス　ハテ樂しき勞力は苦痛を治し申す。これぞ即ち御寢所口。

みづから甘しとする骨折は其の勞たる觀えず。physics は動詞。

マクダフ　鞭りをかへり見ずいで推參つかまつらん乘ぬて仰せつけられし役目なれば。

（退場）

limited は「特に定められたる」といふ程の義。

Len. Goes the King hence to-day?

Macb. He does:—he did appoint so.

Len. The night has been unruly. Where we lay, Our chimneys were blown down,
and, as they say, Lamentings heard i' the air; strange screams of death,
And prophesying with accent terrible
Of dire combustion and confused events
New hatched to the woful time. The obscure bird
Clamoured the livelong night: some say, the earth
Was feverous, and did shake.
Macb. 'Twas a rough night.
Len. My young remembrance cannot parallel
A fellow to it.

レノックス　陛下にはよゝ今日御發程あらせらるゝや。
マクベス　いかにも、さかに御約定あらせられたり。
レノックス　そなたも昨夜は騒々しいことでござッた。我々どもが打臥せしあたりにては煙筒が吹き倒され、又耳によれば哭きあめく聲々、空中に聞こえ、或はまた斷末魔の怪しき叫び聲、或は又機にあひて生れたる種々の怖しき凶事騒動、知らせ報なる物凄き聲々かゝて、加へて彼のまがゝしき夜の鳥が、夜明しに鳴き叫び、大地も震にかゝッたやうに、たえ難ッたと人の噂。
「逆の惡事」といふ凶事の前兆なり。
マクベス　げに騒しい晩でござッた。
レノックス　それがしなどが若輩の經見には思ひ出すべき對例がござりませぬわえ。

Re-enter MACDUFF.

Macd. O horror, horror, horror! Tongue, nor heart
Cannot conceive nor name thee!
Macb., Len. What's the matter?
Macd. Confusion now hath made his masterpiece!
Most sacrilegious murder hath broke ope
The Lord's anointed temple, and stole thence
The life o' the building.
Macb. What is 't you say? the life?
Len. Mean you his majesty?
Macd. Approach the chamber, and destroy your sight
With a new Gorgon. Do not bid me speak:

See, and then speak yourselves.

[*Exeunt* MACBETH *and* LENNOX.

マクダフ又登場

マクダフ　あな怖ろしや〳〵。舌にも心にも、思ふこと能はず名くること能はず。

原文にては「恐怖」を活喩して人に擬したり。

マクベス、レノックス　ヤヽ何んと。

マクダフ　今こそ破壊が絶技をなされ。天罰知らざる殘賊がかみのみくらを切り破ッて御ン玉の緒をばエヽ無慚や、盗み去ッてムりまする。

此の白原文にてもやヽ誇張に過ぎて妙ならず或はシエークスピアの筆にあらずと疑ふ者さへあり。「かみのみくら」原文には「上帝の天祐によりて神聖にされたる堂宇」とありて一方の意義は字面の如く神聖なる堂宇へ賊の入りたることをきかせ他方にはテムプルに身体の義あるをもてダンカン王の身体といふことをきかせ「天祐を受けさせられたる陛下の御ン身」といふ義を見せたり。即ち弑逆の賊をもて神堂を冒瀆する盗賊に喩へたるなり。譯文は止むを得ずして「かみのみくら」といふ言葉をもて神さ上さをきかせみくらに身さ御殿さをきかせんとしたり。

マクベス　ナニ御ン玉の緒とや。

レノックス　そは我が陛下の御ン上なるか。

マクダフ　御寢所に近よッて新ゴーゴンの面を見られよ、ふた目と見ること叶ふまじ、それがしに物語れとおほせられな、見て後みづから語りめされ。

「ゴーゴン」は古詩人の作中に見えたる醜悪無類の魔鬼、人一たび其の面を見れば恐怖のあまり石に化すといひ傳へたり。

(マクベス幷にレノックス退場)

Awake! awake!—

Ring the alarum-bell.—Murder, and treason'
Banquo and Donalbain! Malcolm! awake!
Shake off this downy sleep, death's counterfeit,
And look on death itself! up, up, and see
The great doom's image!—Malcolm! Banquo.
As from your graves rise up, and walk like sprites,
To countenance this horror!

[*Bell rings.*

マクダス　ヤア〳〵人々起き出候へ。非常鐘を鳴らし候へ。弑逆あり〳〵。バンコーぬしドナルベインは在さぬか。マルコームの宮はいづこに。起き出でた

62
304

ま〳〵。疾く振落せ死の假面を、そのあた〻かき安眠をば。死の眞相を見よや人々、

原文には「鳥の柔毛のやうに柔かき眠を拂ひ落せ、その死の肖像を、云々」とあり。「拂ひ落せ」とは柔手といふ胴より出でたるなれど拙き筆には譯しがたし。

起きよ〳〵。見よ大審判日の面影をば。

宇宙滅絶の日の面影とも思はる〻此の大珍事を疾く見よとなり。

マルコームの宮、ベンコーぬし、墳墓のうちより起き出たらん亡靈のやうにさまよひ來て、此の怖しさに相應せよ。

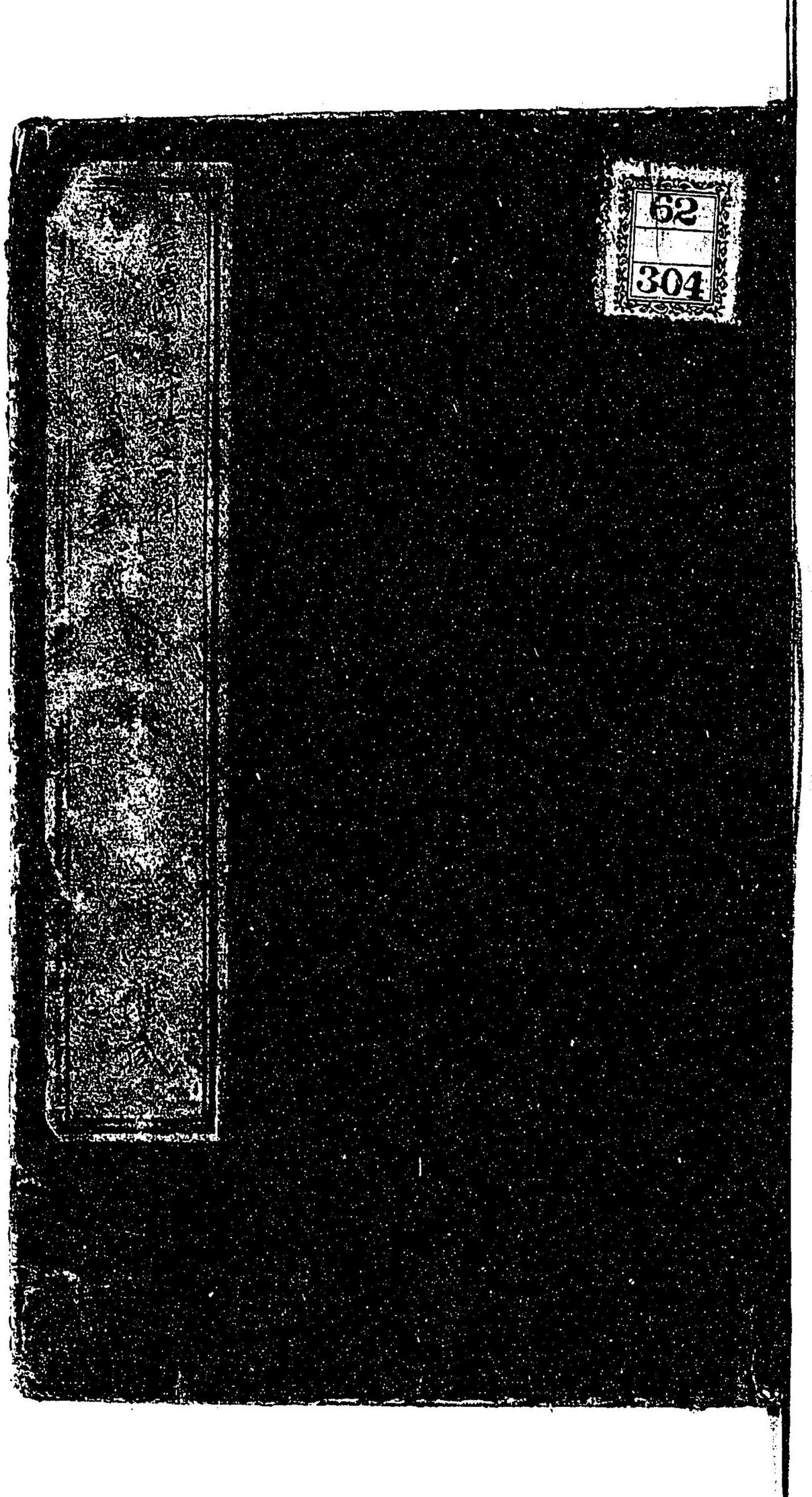
君等起きいで來たらば幽靈のやうにさまよひ歩け、尊常の震動をもて出來たりなば此の怖しき場合に相かなはざるべしとなり。激昂のあまりに盲ひいでたる語、原文にてすら誇張に流れたれば譯すればいよ〳〵聞くに堪へず。

いざふれ鐘を。

Enter Lady MACBETH.

Lady M. What's the business,
That such a hideous trumpet calls to parley
The sleepers of the house? speak, speak!

（警鐘鳴る）



205052-000-2

62-304

英文評釈

坪内　雄蔵／述

[刊年不明]

EDV-0045